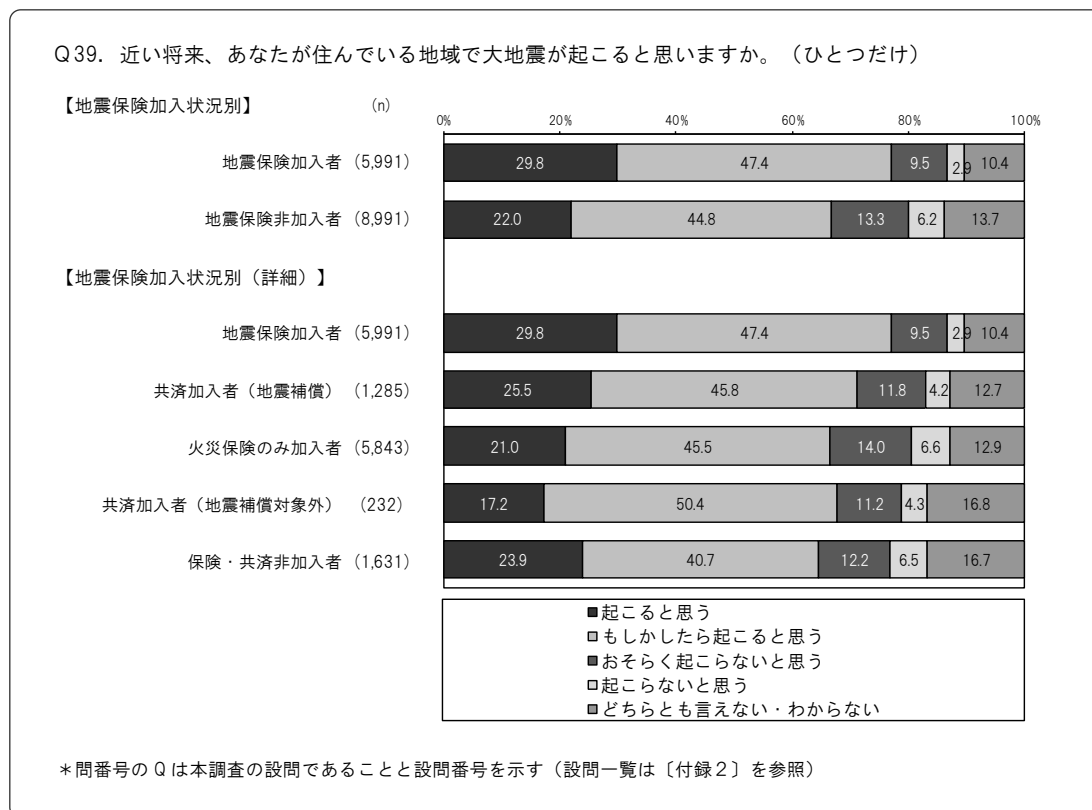


3. 地震危険に対する意識等

(1) 大地震発生の可能性

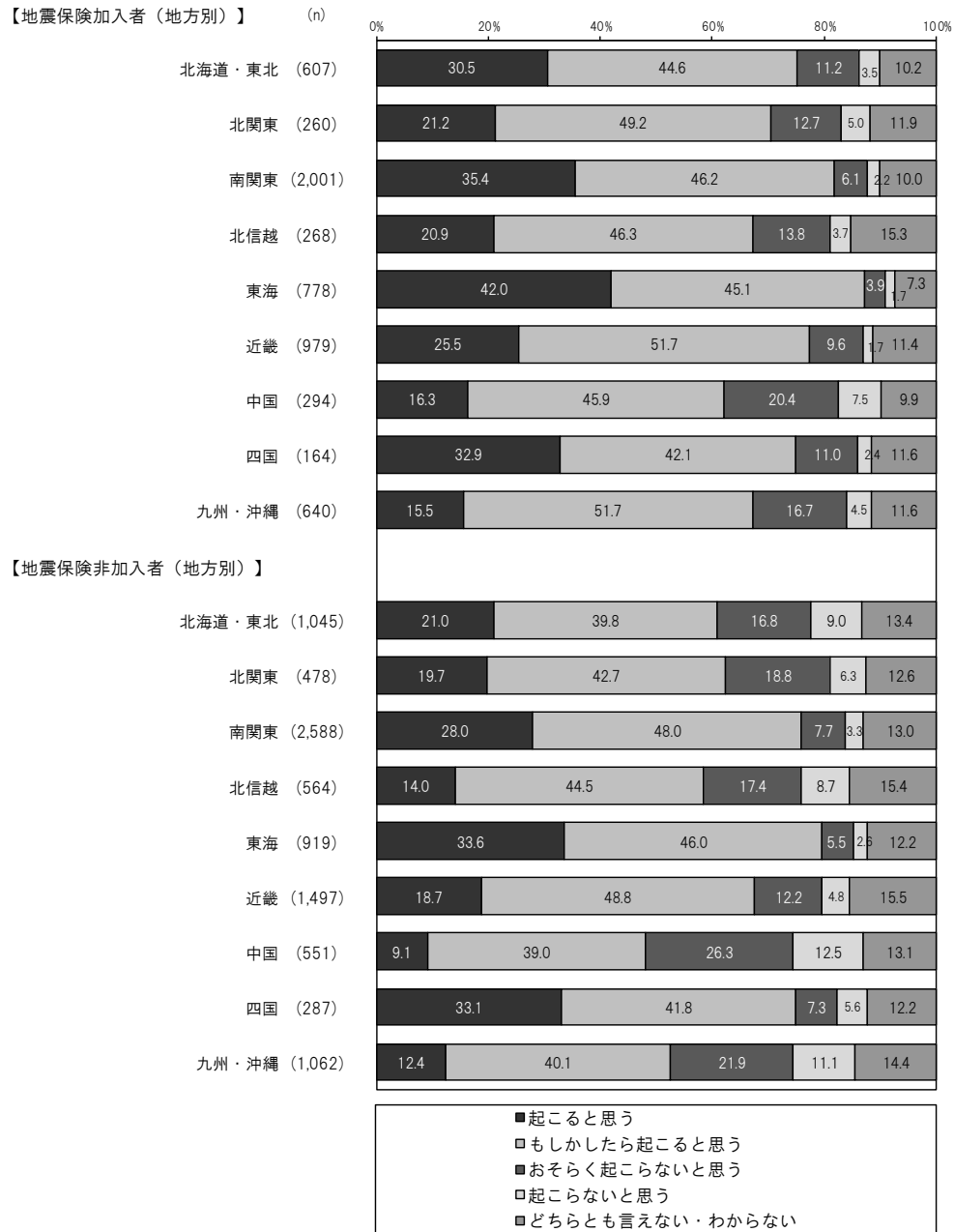
① 大地震発生の可能性の意識



現在の居住地域で大地震が起こる可能性について、「起こると思う」と「もしかしたら起こると思う」を合わせた比率をみると、地震保険加入者は77.2%（=29.8%+47.4%）、地震保険非加入者は66.8%（=22.0%+44.8%）で、約10ポイントの差がある。

地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償）では「起こると思う」と「もしかしたら起こると思う」を合わせた比率は71.3%（=25.5%+45.8%）となっており、他の区分をやや上回る。

《参考》大地震発生の可能性の意識を地方別に集計

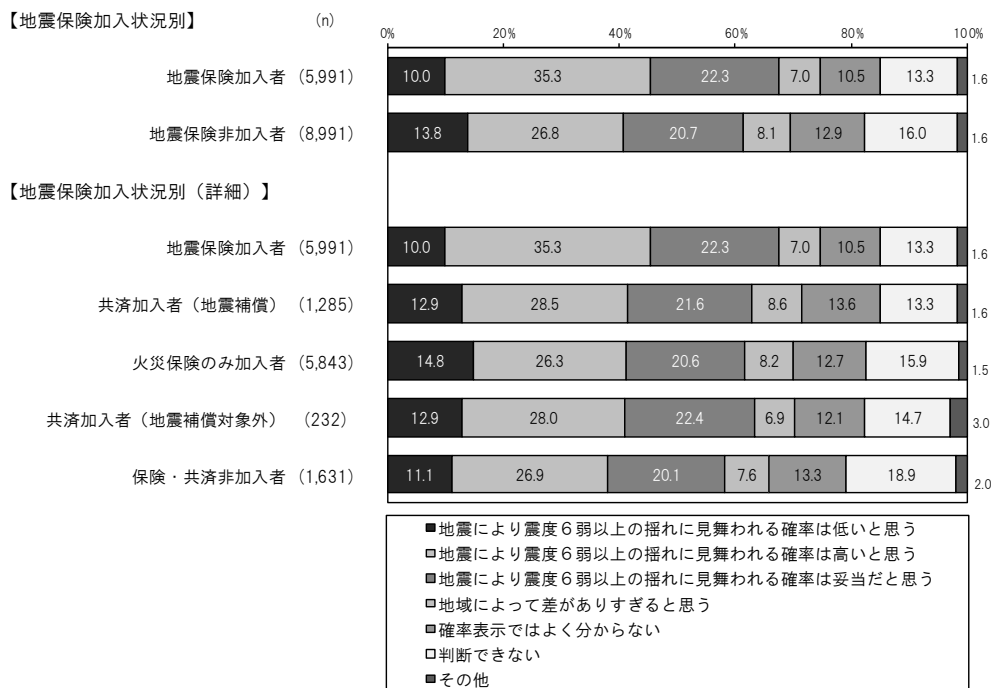


《参考》は、地方別に集計した結果である。地震保険加入者・非加入者ともに、南関東、東海、近畿、四国で「起こると思う」と「もしかしたら起こると思う」を合わせた比率が高い。

② 地震危険度

Q40. 政府の地震調査研究推進本部が公表している、「確率論的地震動予測地図」をご覧になって、あなたが住んでいる地域の地震危険度は、どのように思いますか。

次のうち一番近い感想をお答えください。（ひとつだけ）



* アンケート内で回答者に確認いただいた資料は、〔付録2〕を参照

「確率論的地震動予測地図」を提示して、居住地域の地震危険度の感想を質問したところ、地震保険加入者・非加入者ともに「地震により震度6弱以上の揺れに見舞われる確率が高いと思う」の比率が最も高くなっているが、地震保険加入者では35.3%、地震保険非加入者では26.8%と、約9ポイントの差がある。

地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償）では「地震により震度6弱以上の揺れに見舞われる確率が高いと思う」が28.5%となっており、他の区分をやや上回る。

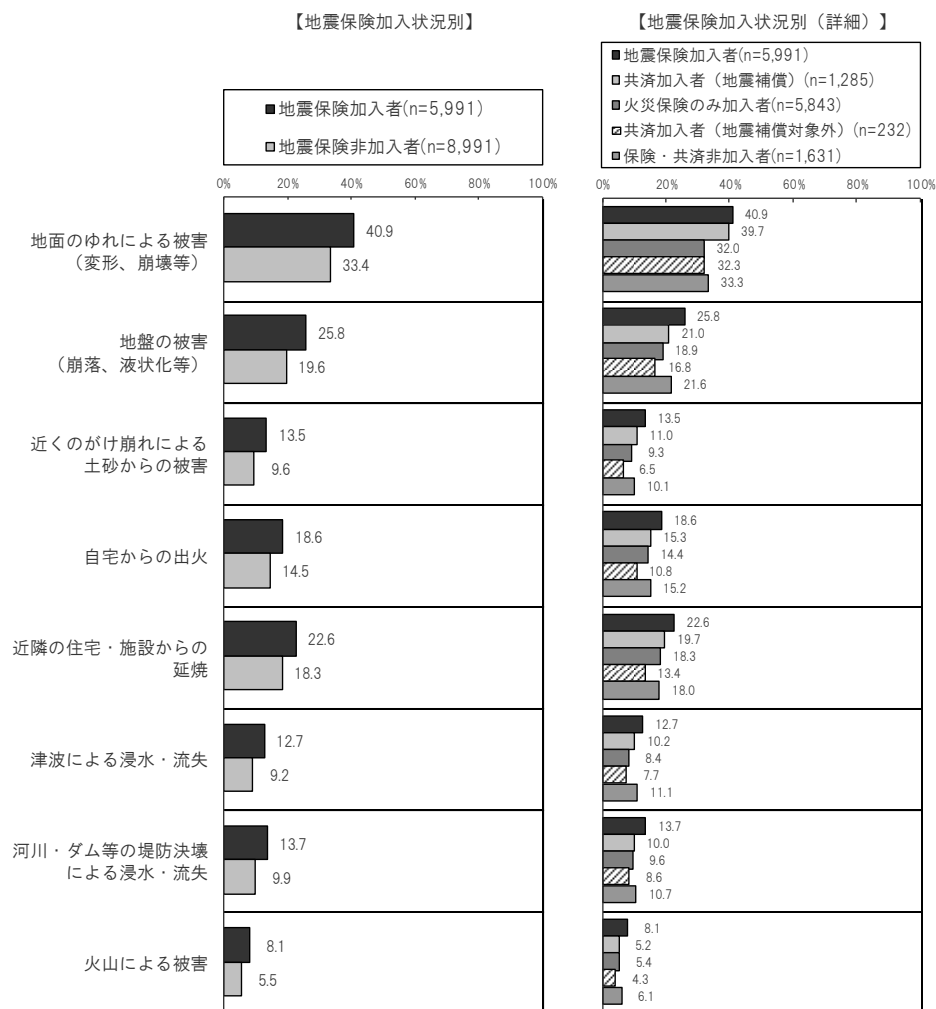
(2) 地震による被害発生の可能性

① 住居建物の被害

Q41. 仮に、あなたの住んでいる地域で大地震が起こった場合に、どのような被害が発生すると思いますか。

(それぞれひとつずつ)

(注) 住居建物の被害について、「被害が発生する可能性が極めて高い」と「被害が発生する可能性が高い」の合計値を掲載

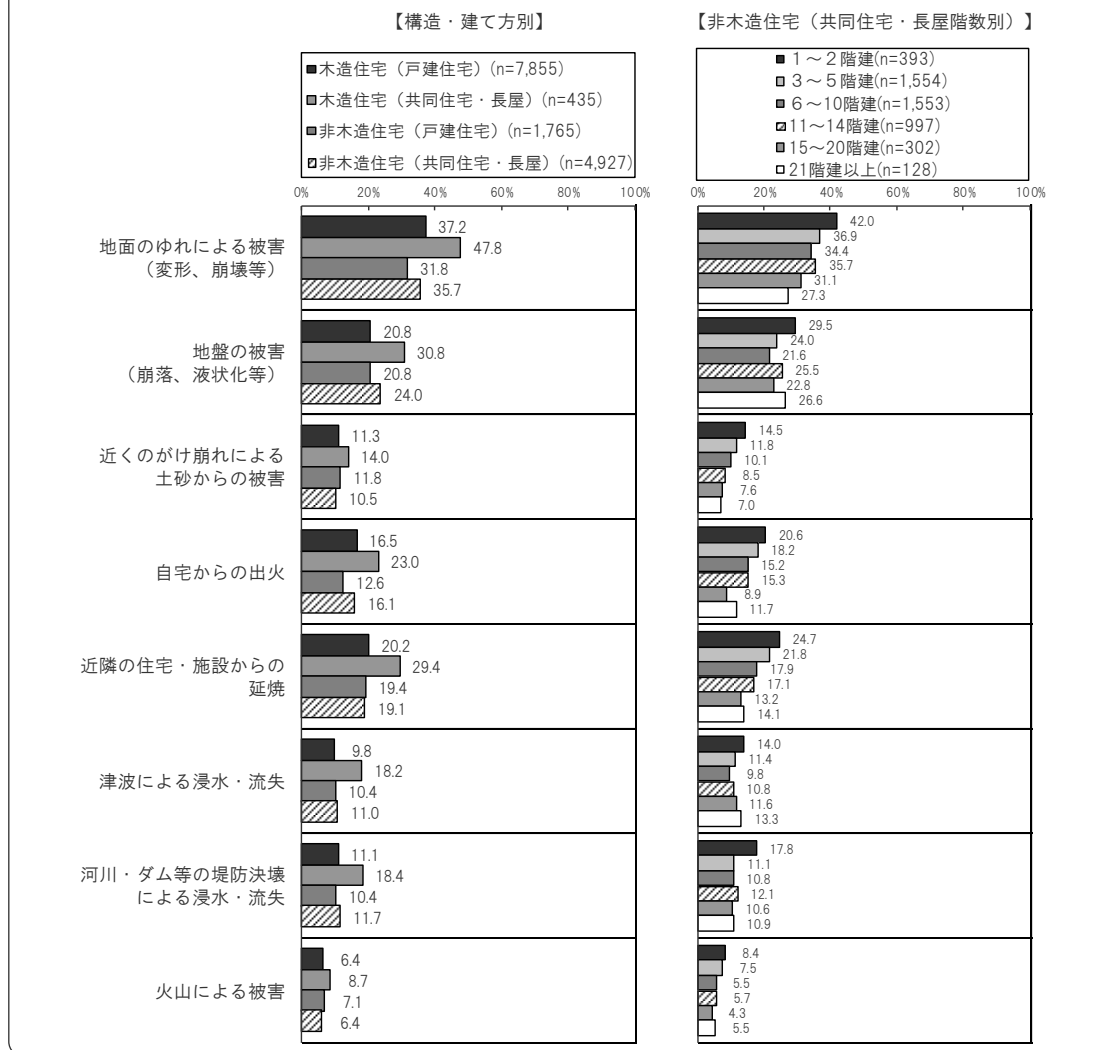


居住地域で大地震が起こった場合、『住居建物』にそれぞれの被害が発生する可能性を質問した。グラフは、「被害が発生する可能性が極めて高い」と「被害が発生する可能性が高い」の合計値を示している。

地震保険加入者・非加入者ともに「地面のゆれによる被害(変形、崩壊等)」の比率が最も高く、次いで、「地盤の被害(崩落、液状化等)」「近隣の住宅・施設からの延焼」の順となっている。いずれの被害形態も、地震保険加入者が非加入者を上回っている。

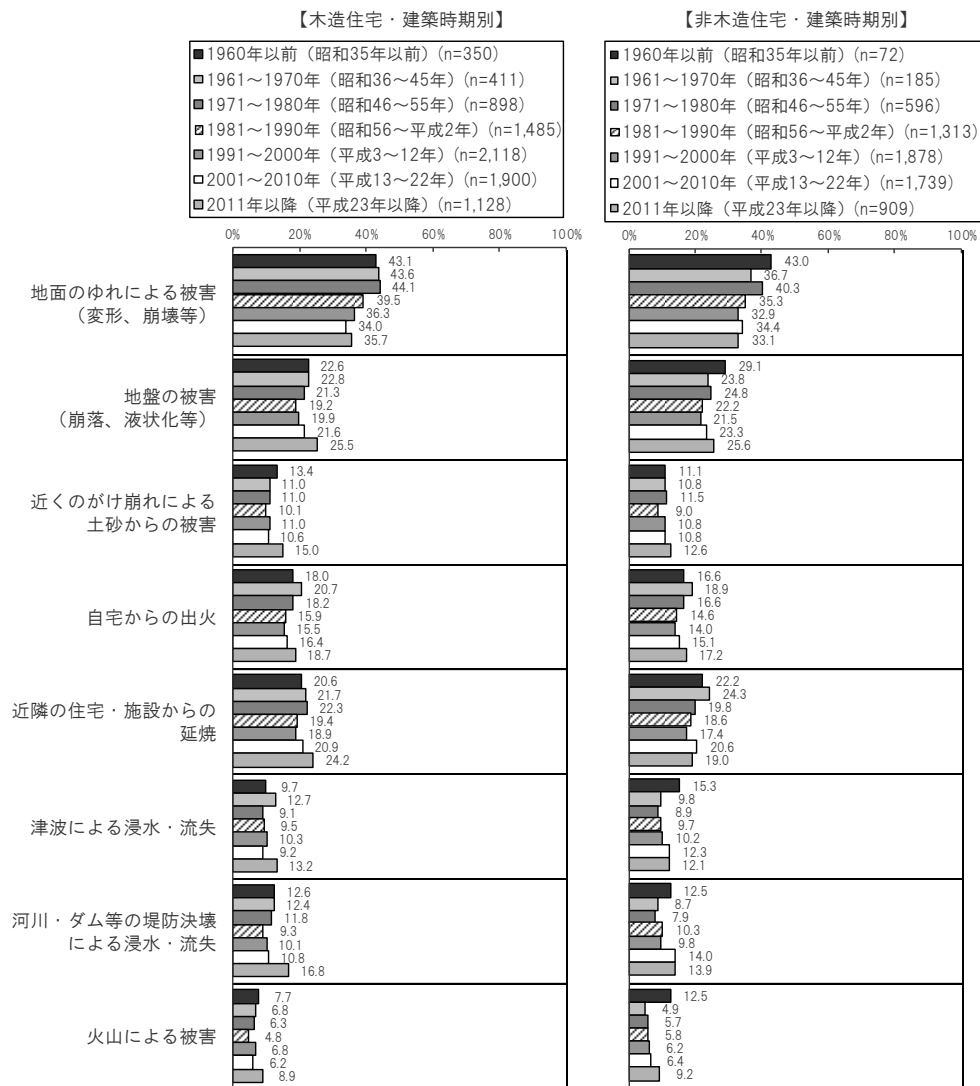
地震保険非加入者を詳細にみると、すべての区分で「地面のゆれによる被害(変形、崩壊等)」の比率が最も高い。

《参考1》住居建物への被害の意識を構造・建て方・建物階数別に集計



《参考1》は、構造・建て方・階数別の集計結果である。いずれの区分においても「地面のゆれによる被害（変形、崩壊等）」の比率が最も高い。

《参考2》住居建物への被害の意識を構造・建築時期別に集計



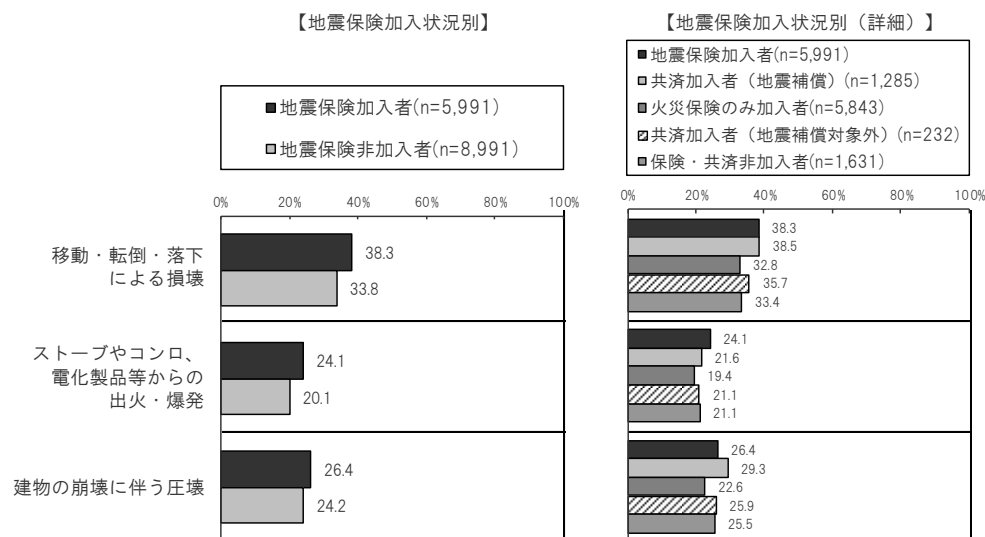
《参考2》は、構造・建築時期別の集計結果である。木造住宅、非木造住宅ともに建築時期を問わず、「地面のゆれによる被害（変形、崩壊等）」の比率が最も高いが、建築時期が新しいほど、この比率が小さい傾向がある。

② 家財の被害

Q41. 仮に、あなたの住んでいる地域で大地震が起こった場合に、どのような被害が発生すると思いますか。

(それぞれひとつずつ)

(注) 家財の被害について、「被害が発生する可能性が極めて高い」と「被害が発生する可能性が高い」の合計値を掲載

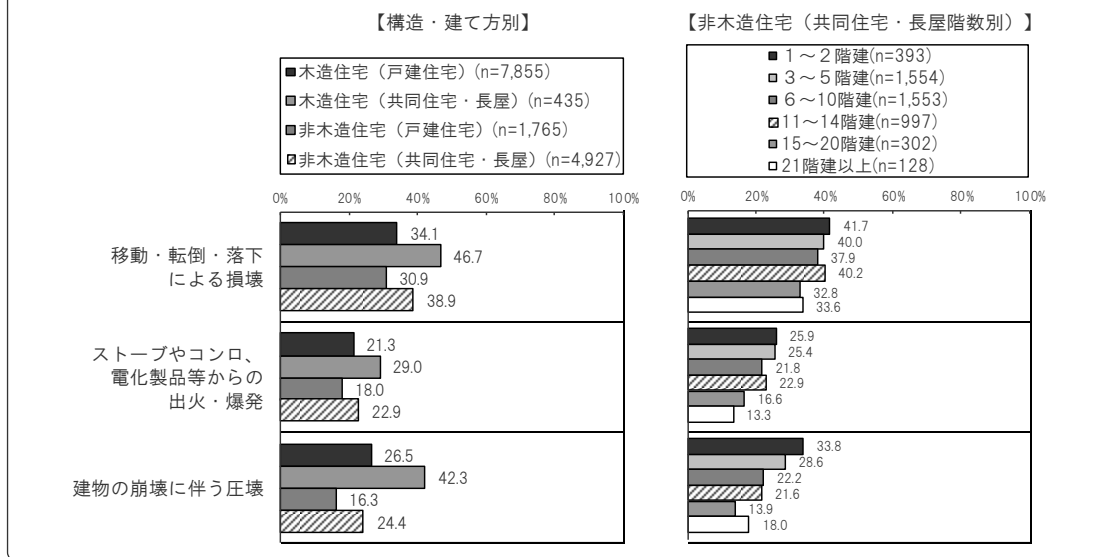


居住地域で大地震が起こった場合、『家財』にそれぞれの被害が発生する可能性を質問した。グラフは、「被害が発生する可能性が極めて高い」と「被害が発生する可能性が高い」の合計値を示している。

地震保険加入者・非加入者ともに「移動・転落・落下による損壊」の比率が最も高く、次いで、「建物の崩壊に伴う圧壊」「ストーブやコンロ、電化製品等からの出火、爆発」の順となっている。いずれの被害形態も、地震保険加入者が非加入者を上回っている。

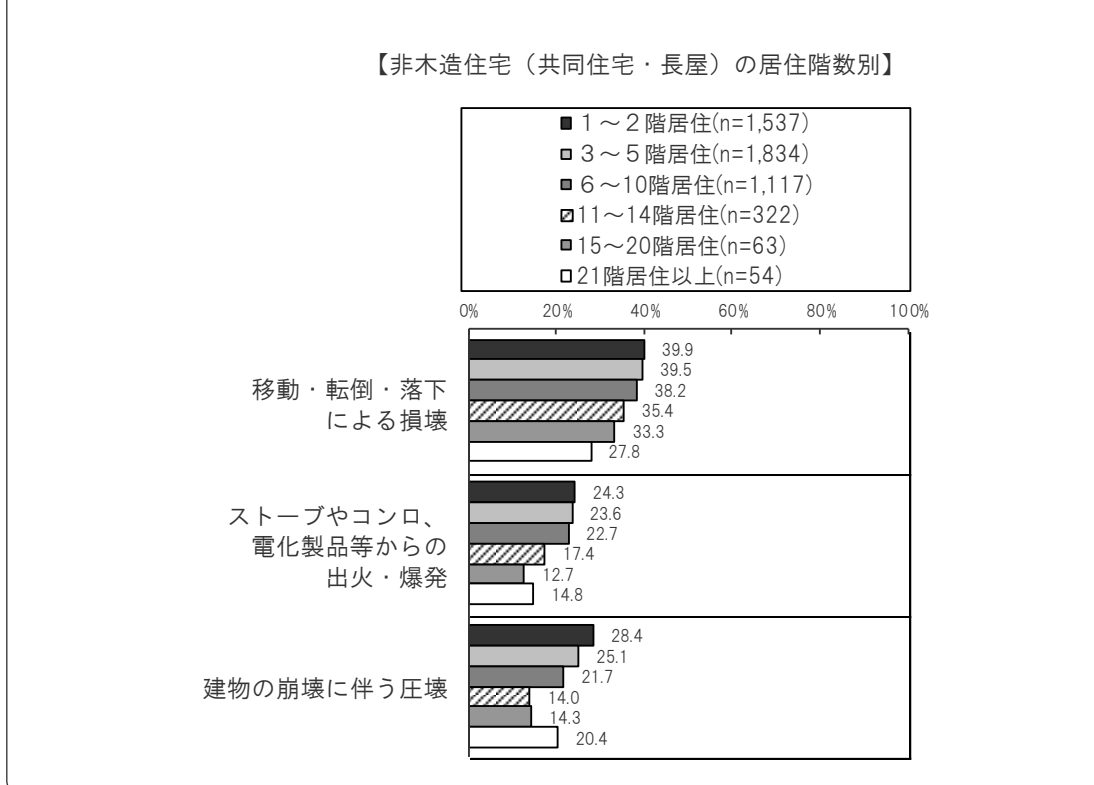
地震保険非加入者を詳細にみると、すべての区分で「移動・転落・落下による損壊」の比率が最も高い。

《参考1》家財への被害の意識を構造・建て方・建物階数別に集計



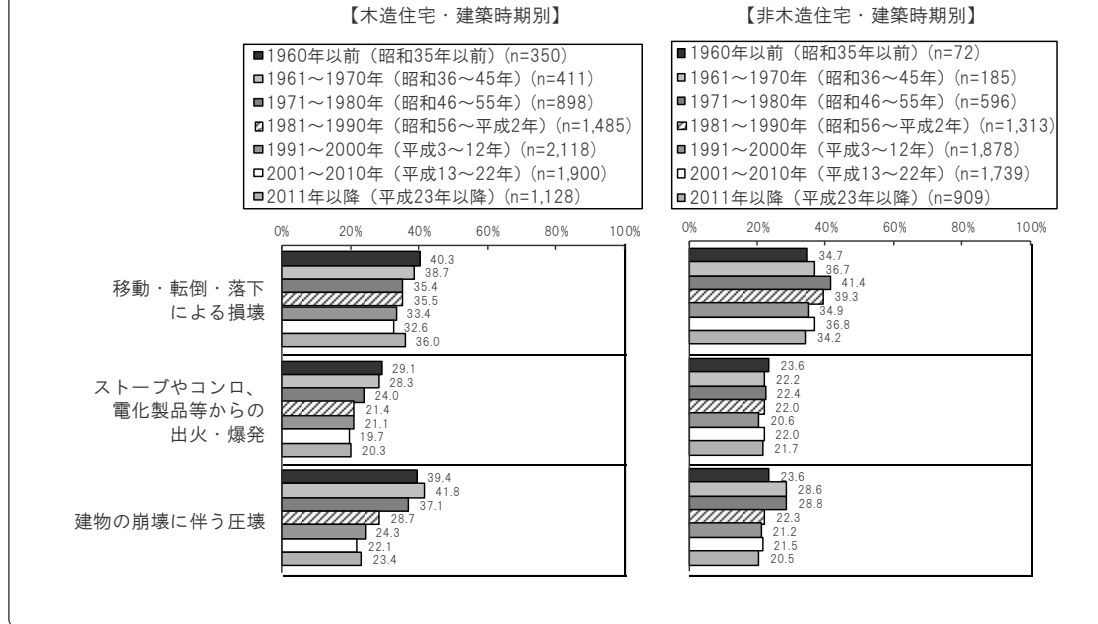
《参考1》は、構造・建て方・階数別の集計結果である。いずれの区分においても「移動・転倒・落下による損壊」の比率が最も高い。

《参考2》家財への被害の意識を非木造住宅（共同住宅・長屋）の居住階数別に集計



《参考2》は、非木造住宅（共同住宅・長屋）の居住階数別の集計結果である。いずれの区分においても「移動・転倒・落下による損壊」の比率が最も高い。

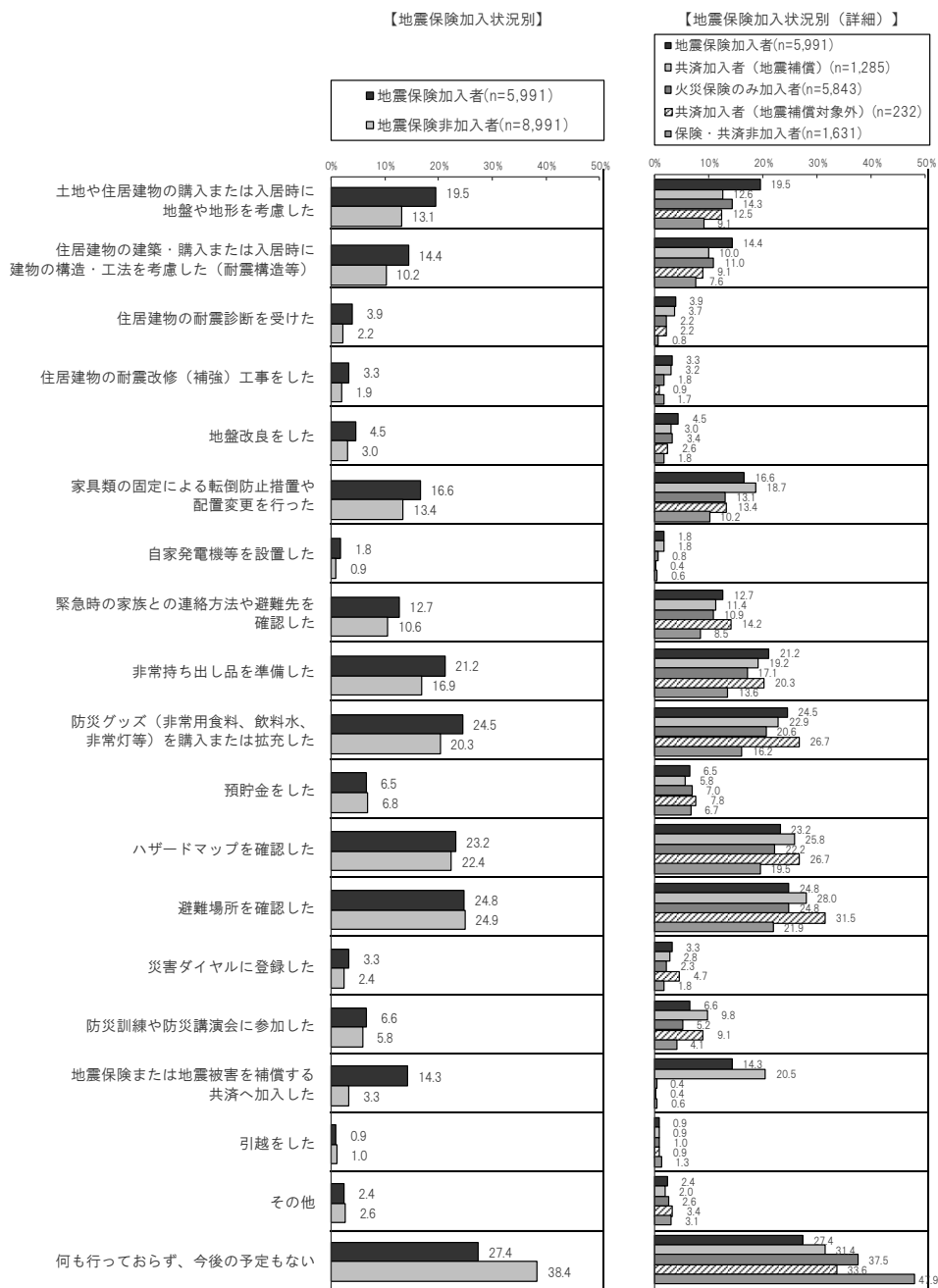
《参考3》家財への被害の意識を構造・建築時期別に集計



《参考3》は、構造・建築時期別の集計結果である。「1971~1980年（昭和46~55年）」以前の木造住宅では、「建物の崩壊に伴う圧壊」が4割程度と、他の区分を上回る。

(3) 地震危険に対する備え

Q38. 大地震に対する備えとして、あなた（あなたの世帯）が今までに行ったこと、あるいは、現在、行っていることは何ですか。今後、予定していることも含めてお答えください。（いくつでも）

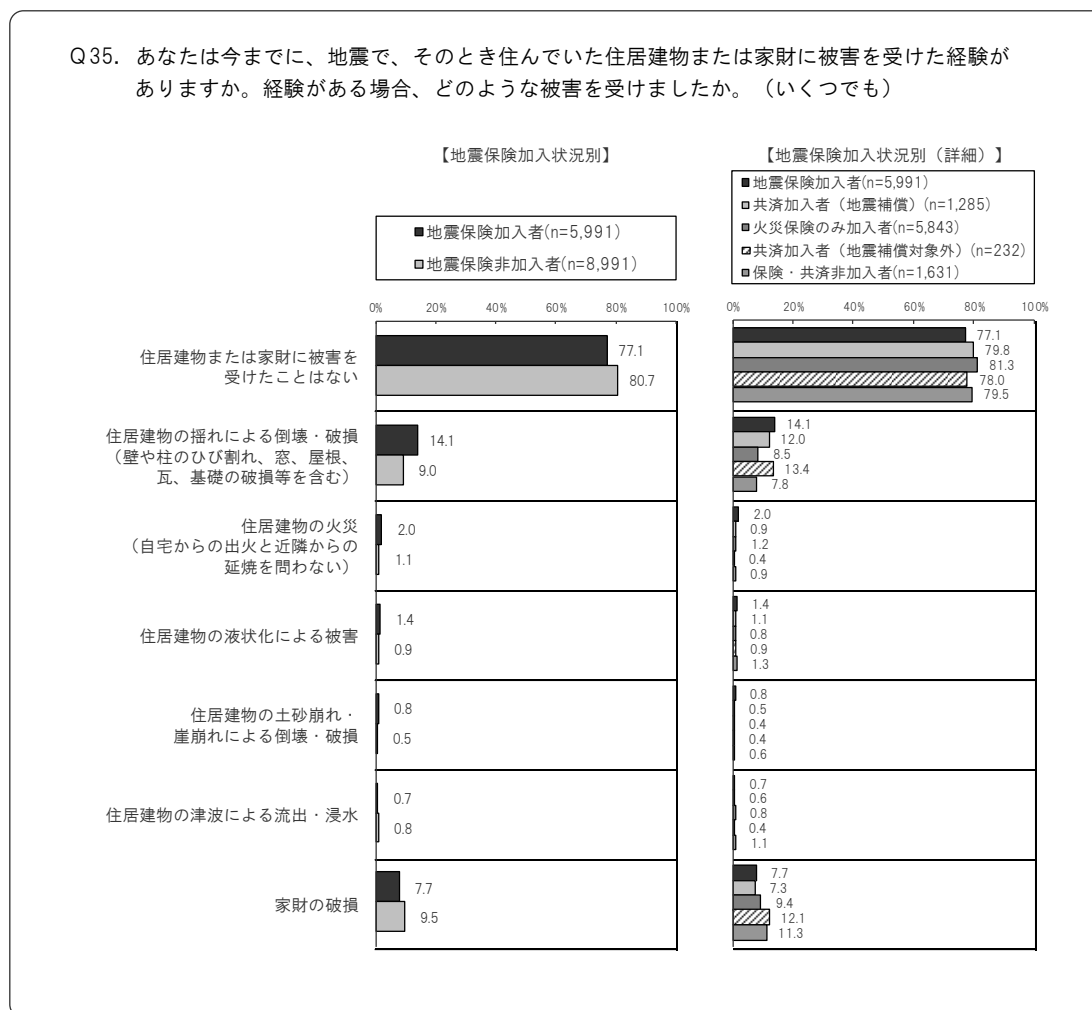


大地震に対する備えの実施状況（予定を含む）について質問した。地震保険加入者は、「防災グッズ（非常用食料、飲料水、非常灯等）を購入または拡充した」（24.5%）、「非常持ち出し品を準備した」（21.2%）、「土地や住居建物の購入または入居時に地盤や地形を考慮した」（19.5%）など、地震に対する備えを行っている比率が地震保険非加入者に比べて高い。また、地震保険非加入者は「何も行っておらず、今後の予定もない」が38.4%で、地震保険加入者の27.4%よりも約11ポイント高い。

地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償対象外）は、「避難場所を確認した」（31.5%）や「防災グッズ（非常用食料、飲料水、非常灯等）を購入または拡充した」（26.7%）、「ハザードマップを確認した」（26.7%）などの項目の比率が他の区分をやや上回る。

(4) 被災経験の有無と被害の内容

Q35. あなたは今までに、地震で、そのとき住んでいた住居建物または家財に被害を受けた経験がありますか。経験がある場合、どのような被害を受けましたか。(いくつでも)



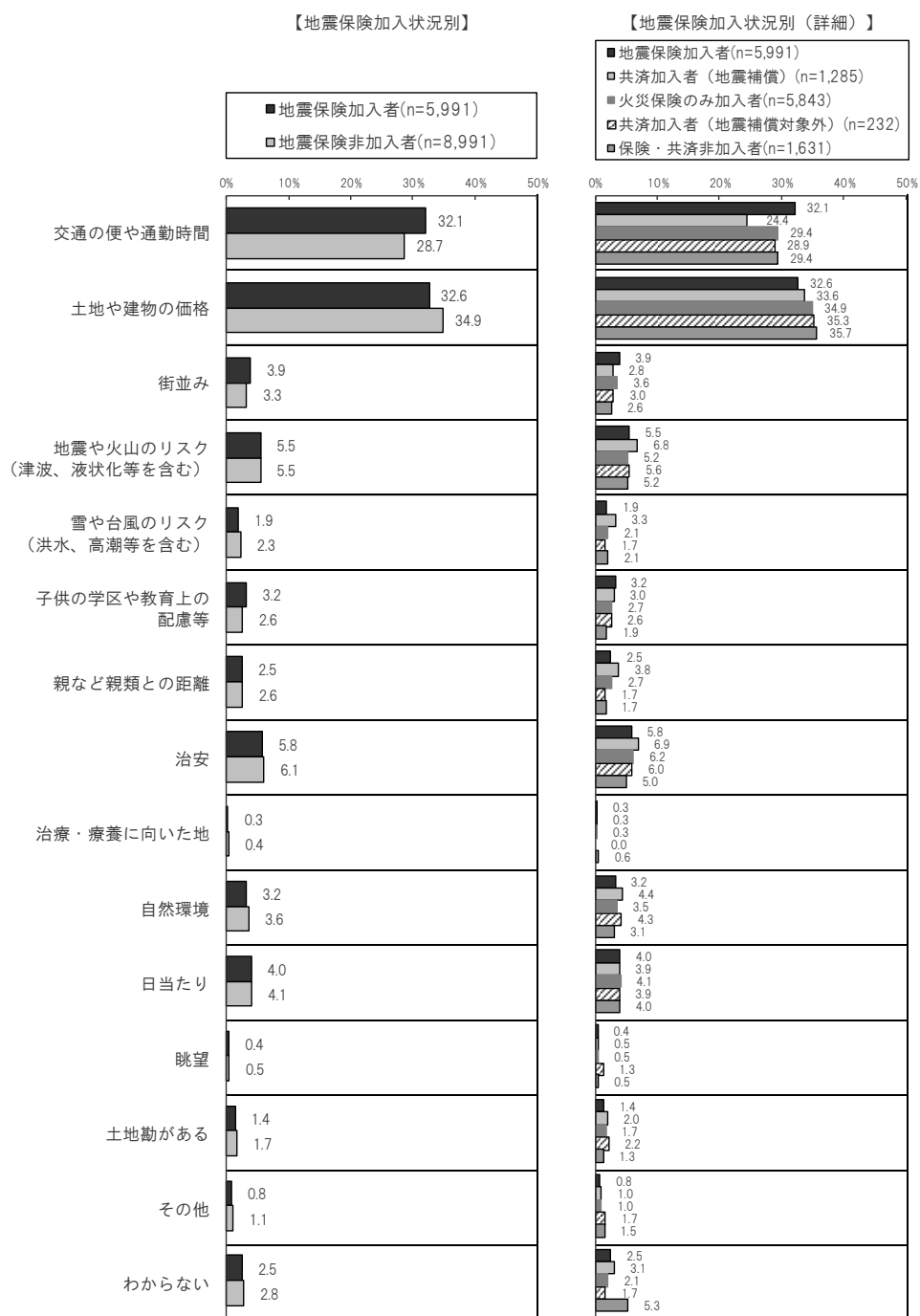
今までに地震で何らかの被害を受けた経験があるかについて質問した。地震保険加入者・非加入者ともに「住居建物または家財に被害を受けたことはない」の比率が最も多く約8割を占める。地震保険非加入者について詳細にみても傾向は同じである。

なお、保険や共済の加入状況は今回の調査時点でのものであり、被災時点の加入状況ではない点に留意する必要がある。以降の設問についても同様である。

(5) 住居建物を購入する場合に優先する立地条件

Q1_1. あなたが、住居建物を購入するとした場合、立地条件として次のどれを優先しますか。
優先度の高い順に最大5つまで選んでください。(5つまで)

<回答結果より、1位に挙げた項目を掲載>



グラフは、住居建物を購入する場合に優先する立地条件のうち1位と選択された比率を示したものである。

地震保険加入者は、「土地や建物の価格」が32.6%で最も高く、「交通の便や通勤時間」が32.1%と僅差で次いでいる。地震保険非加入者も同傾向となっており、「土地や建物の価格」が34.9%で最も高く、「交通の便や通勤時間」が28.7%で次いでいる。

地震保険非加入者を詳細にみても傾向は同じである。

4. 地震保険加入者への質問

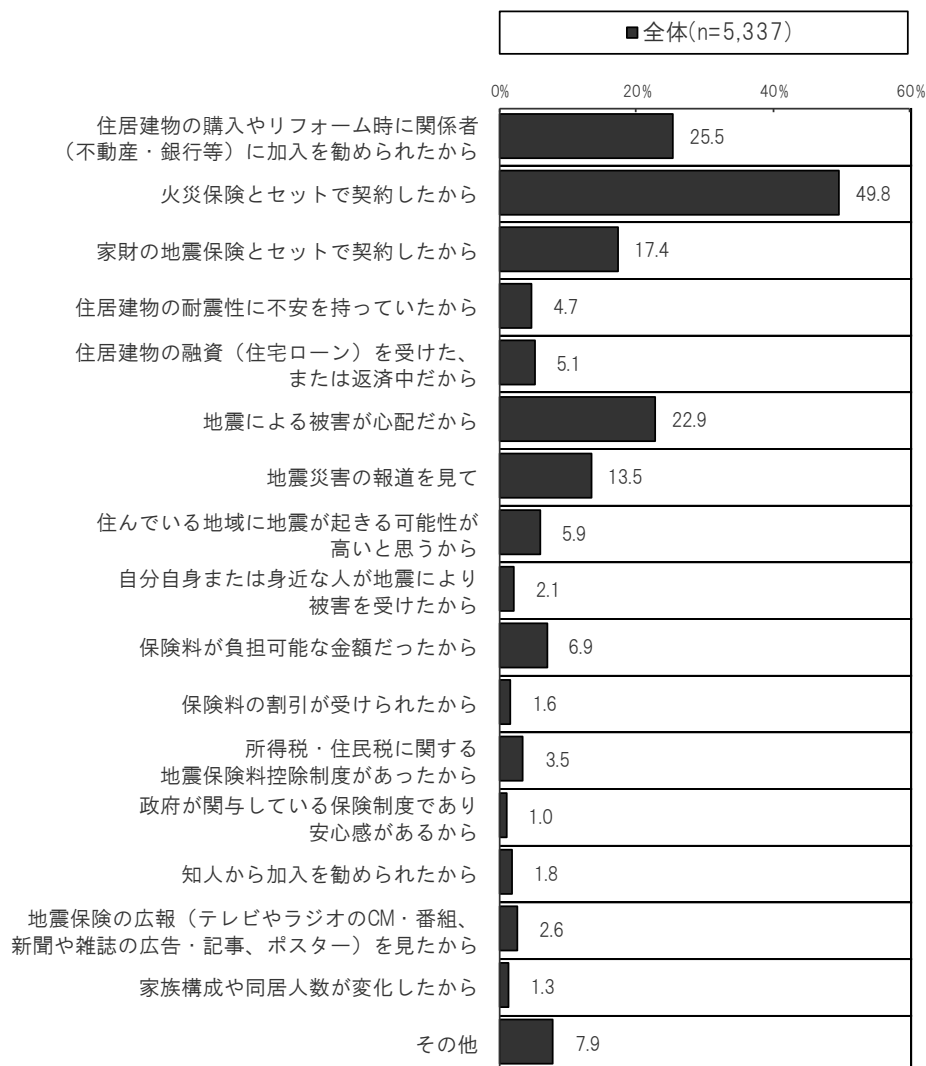
(1) 地震保険に加入した理由

① 住居建物

【SC15（「住居建物」の保険・共済加入状況）で、地震保険に加入していると回答した人に】

Q25 現在、「住居建物」を対象とした地震保険に、加入していると回答された方にお伺いします。

「住居建物」を対象とした地震保険に加入した理由（きっかけ）は何ですか。（いくつでも）



『住居建物』に対する地震保険に加入している人に、加入した理由を質問した。

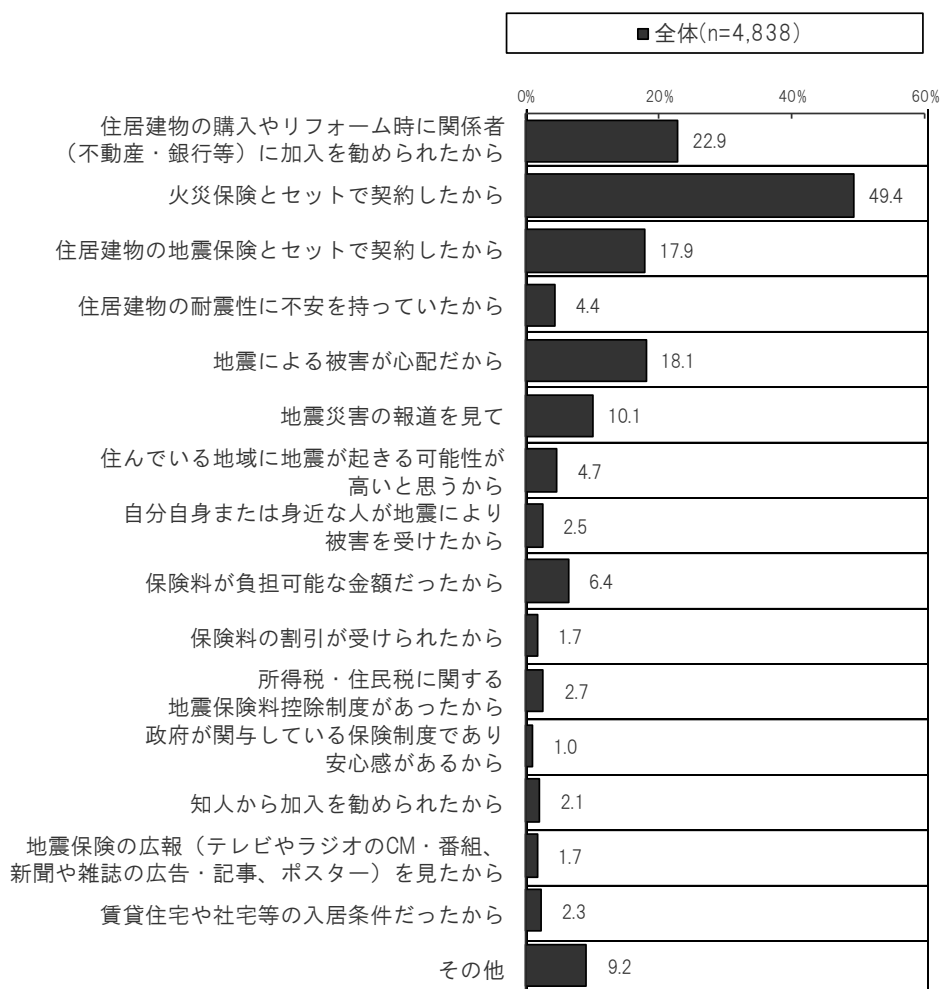
「火災保険とセットで契約したから」49.8%で最も高く、次いで、「住居建物の購入やリフォーム時に関係者（不動産・銀行等）に加入を勧められたから」（25.5%）、「地震による被害が心配だから」（22.9%）の順となっている。

② 家財

【SC16（「家財」の保険・共済加入状況）で、地震保険に加入していると回答した人に】

Q27. 現在、「家財」を対象とした地震保険に、加入していると回答された方にお伺いします。

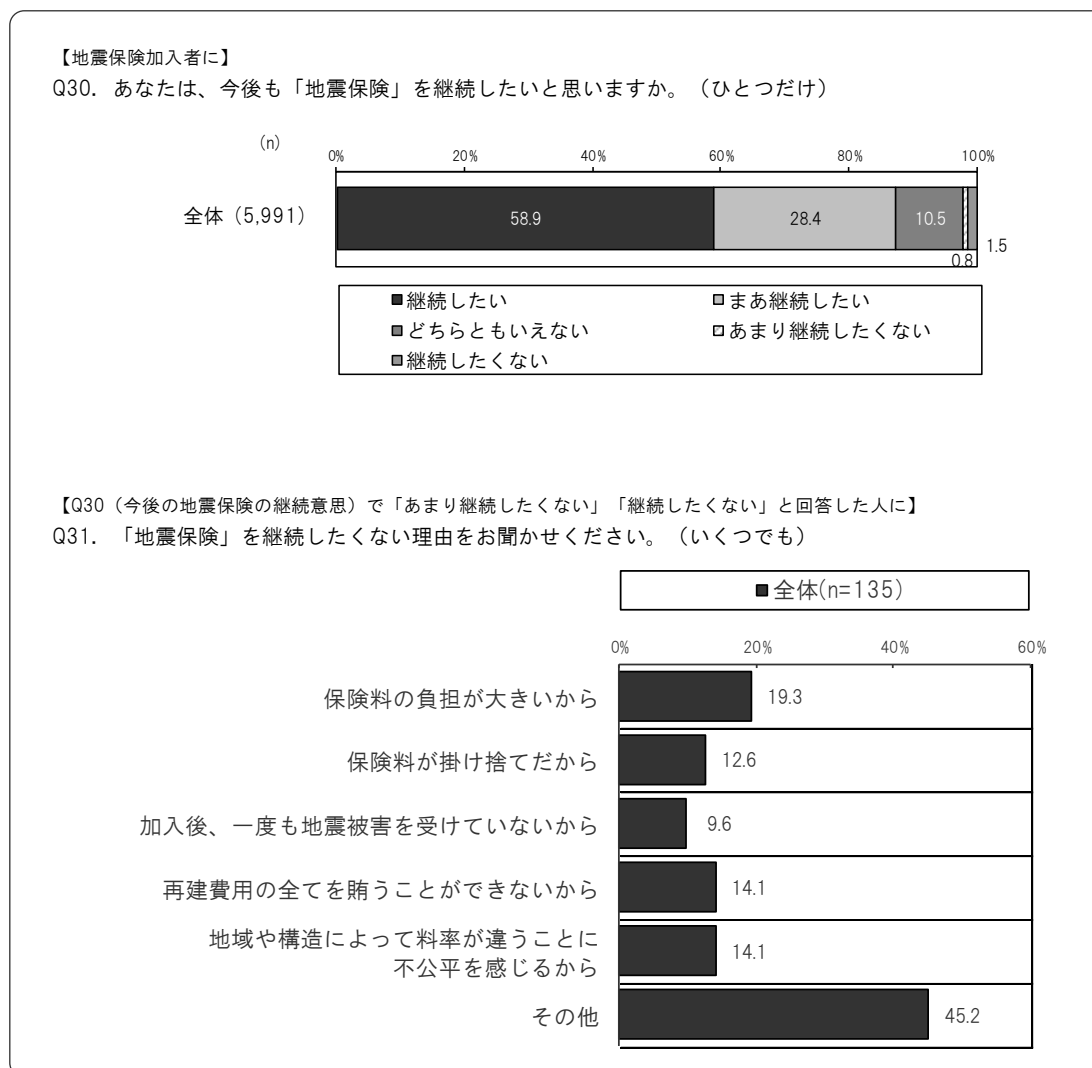
「家財」を対象とした地震保険に加入した理由（きっかけ）は何ですか。（いくつでも）



『家財』に対する地震保険に加入している人に、加入した理由を質問した。

「火災保険とセットで契約したから」の比率が49.4%と最も高く、次いで、「住居建物の購入やリフォーム時に関係者（不動産・銀行等）に加入を勧められたから」（22.9%）、「地震による被害が心配だから」（18.1%）の順となっている。この順番は、①『住居建物』の地震保険加入理由と同じである。

(2) 今後の地震保険の継続意思

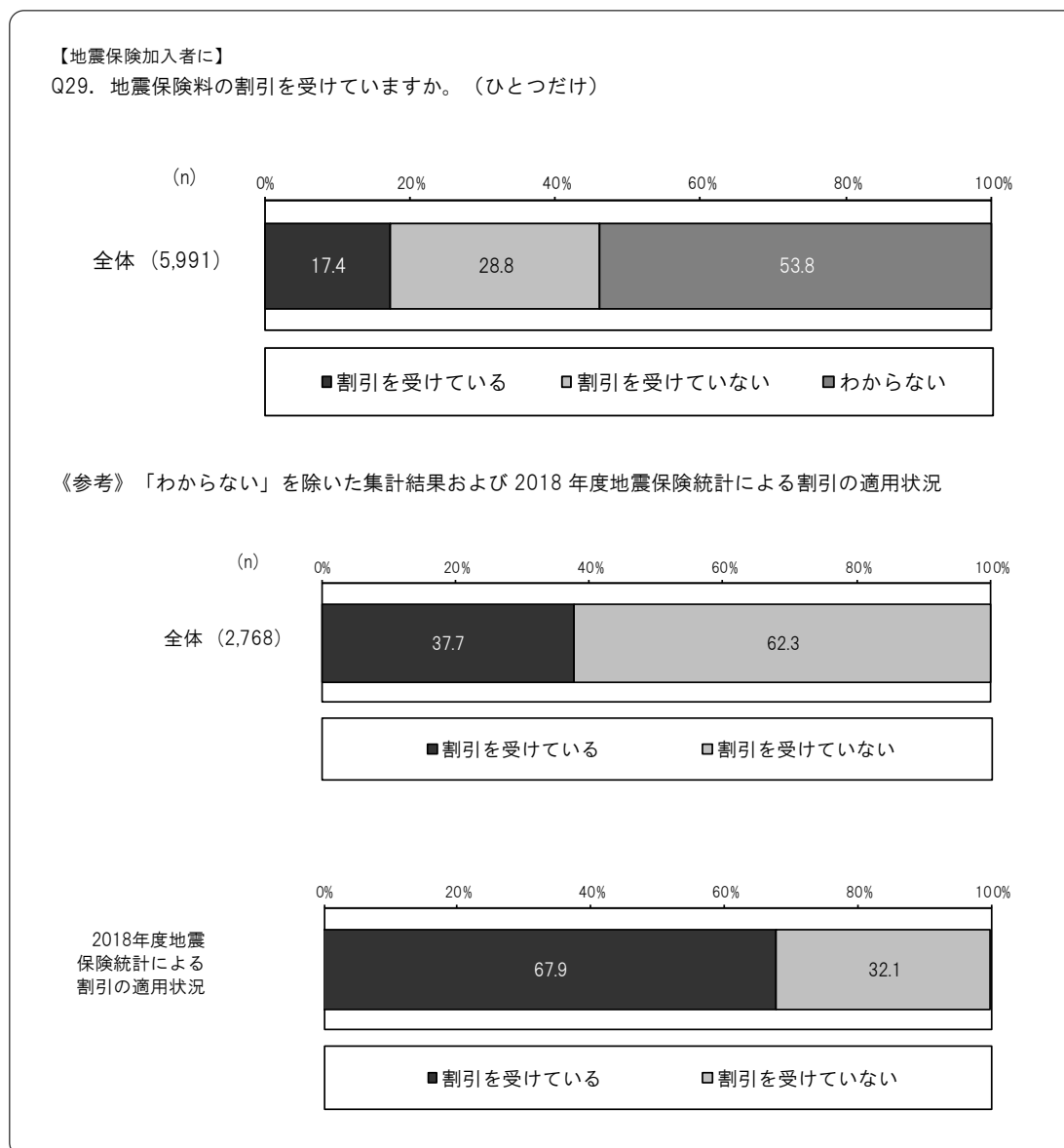


地震保険加入者に、地震保険の継続意思を質問したところ、「継続したい」の比率が58.9%と半数以上を占める。「まあ継続したい」(28.4%)と合わせた『継続したい(計)』では87.3%を占める。

地震保険を継続したくないと回答した人の理由をみると、「その他」の比率が45.2%と最も高く、以下、「保険料の負担が大きいため」(19.3%)、「再建費用のすべてを賄うことができないから」「地域や構造によって料率が違うことに不公平を感じるから」(いずれも14.1%)の順となっている。

(3) 地震保険料の割引の適用状況

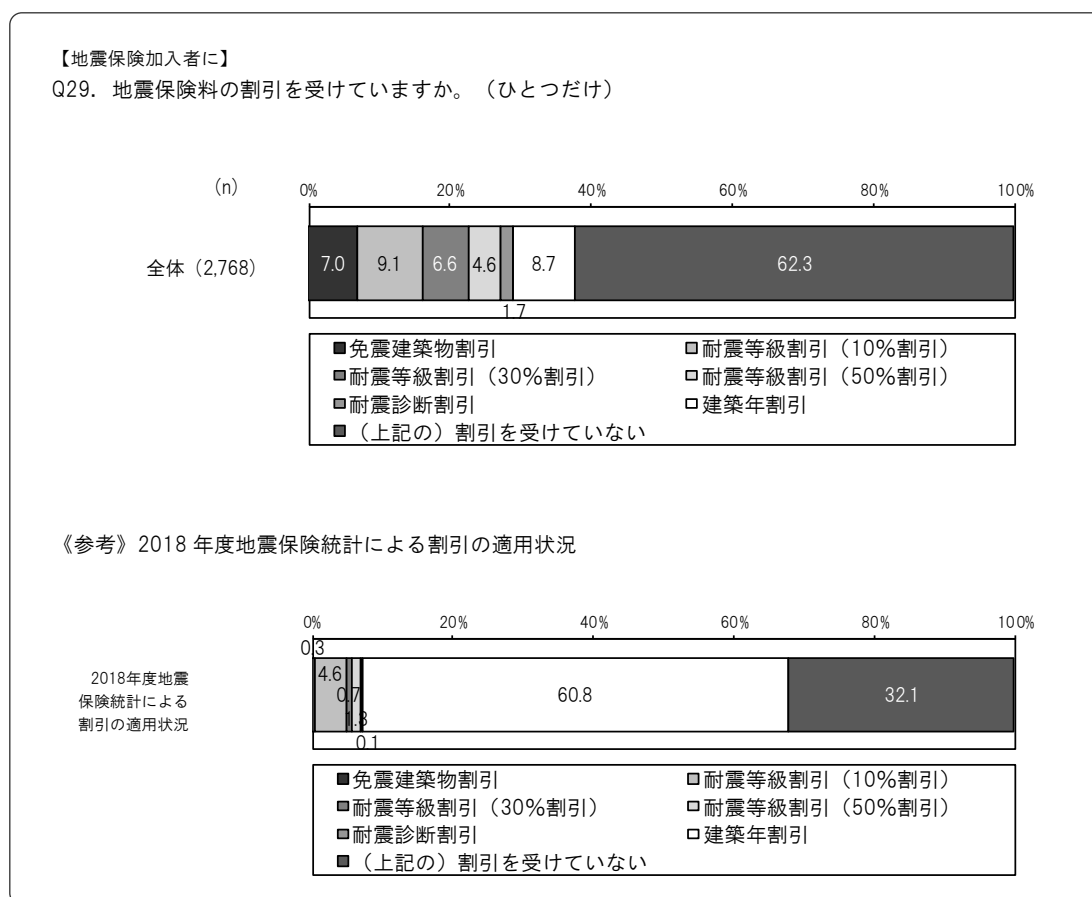
① 割引適用の有無



地震保険加入者に、割引の適用状況を質問したところ、「わからない」が53.8%と最も多く、「割引を受けている」は17.4%、「割引を受けていない」は28.8%となっている。

《参考》として、「わからない」を除いた集計結果と、2018年度地震保険統計による割引の適用状況を示している。本調査結果における「わからない」を除いた「割引を受けている」の比率は37.7%、「割引を受けていない」は62.3%となっている。一方で、地震保険統計における「割引を受けている」の比率は67.9%となっており、「割引を受けていない」は32.1%となっている。

②割引適用の詳細状況（「わからない」を除き集計）



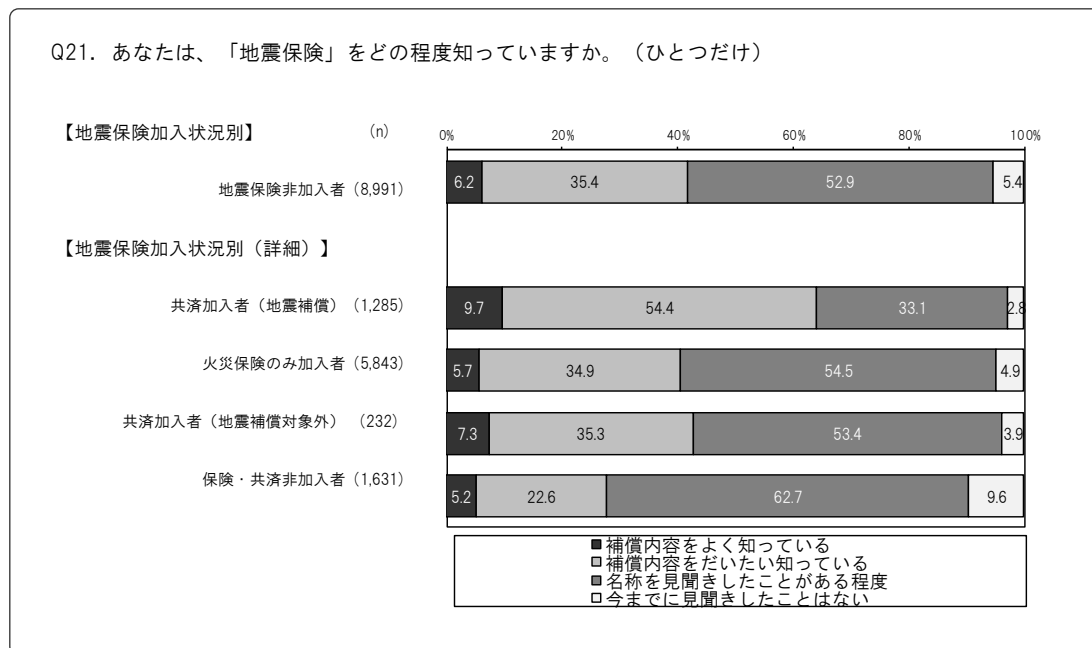
地震保険加入者における割引適用の詳細をみると、「割引を受けていない」が62.3%を占める。なお、割引を受けている人においては、「耐震等級割引（10%割引）」が9.1%と最も高く、「建築年割引」が8.7%で次いでいる。

《参考》として、2018年度地震保険統計による割引の適用状況を示している。地震保険統計における「建築年割引」の比率は60.8%となっているが、本調査結果における「わからない」を除いた「建築年割引」の比率は8.7%となっている。

5. 地震保険非加入者への質問

(1) 地震保険の認知度

①地震保険の認知度



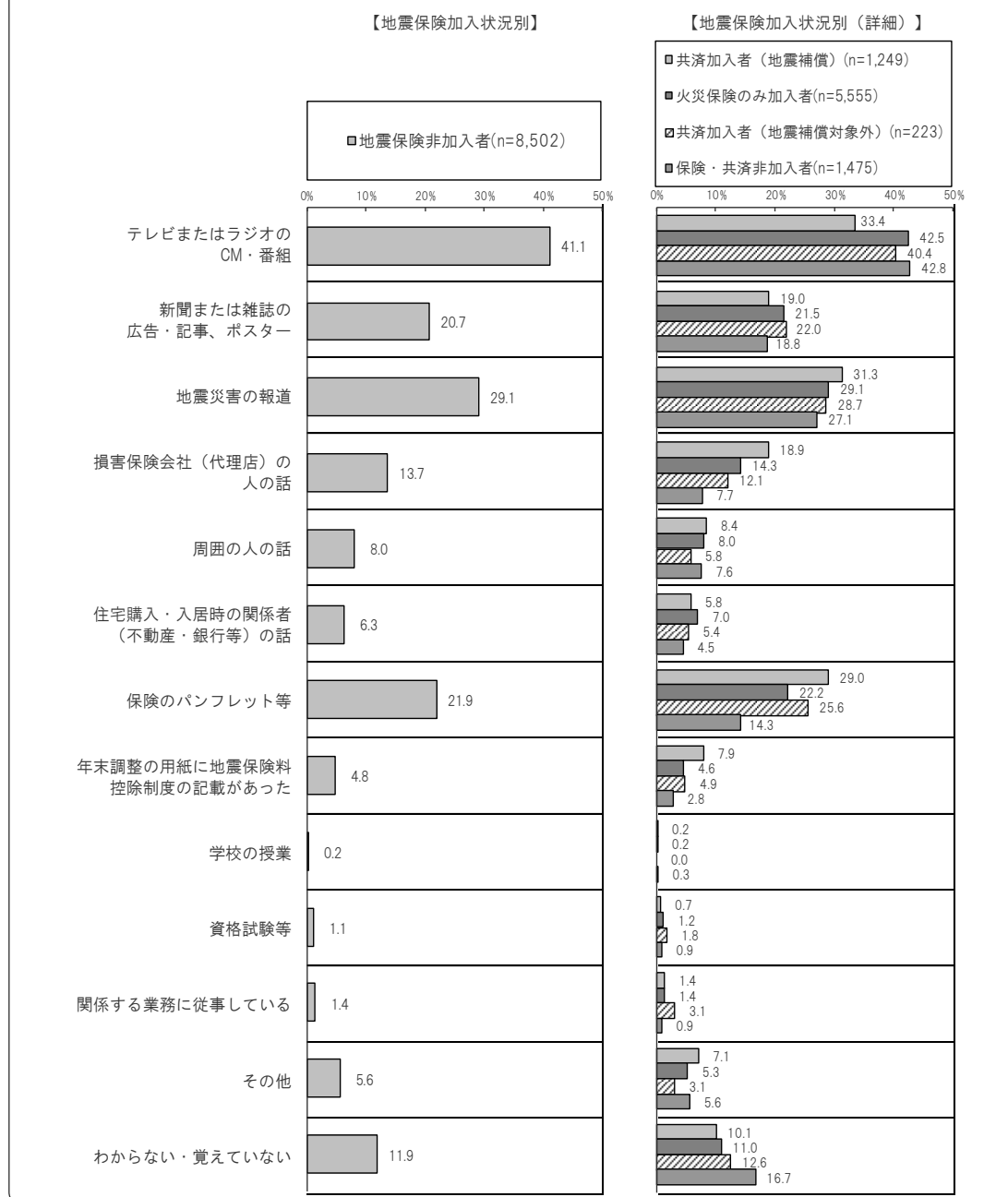
地震保険非加入者に地震保険の認知度を質問した。「名称を見聞きしたことがある程度」が52.9%で最も多く、次いで、「補償内容をだいたい知っている」が35.4%、「補償内容をよく知っている」が6.2%、「今までに見聞きしたことがない」が5.4%である。

地震保険非加入者を詳細にみると、「補償内容をよく知っている」、「補償内容をだいたい知っている」の比率は、共済加入者（地震補償）が最も高い。保険・共済非加入者は、「名称を見聞きしたことがある程度」が62.7%を占める。

② 地震保険を知ったきっかけ

【Q21（地震保険の認知度）で「補償内容をよく知っている」「補償内容をだいたい知っている」「名称を見聞きしたことがある程度」と回答した人に】

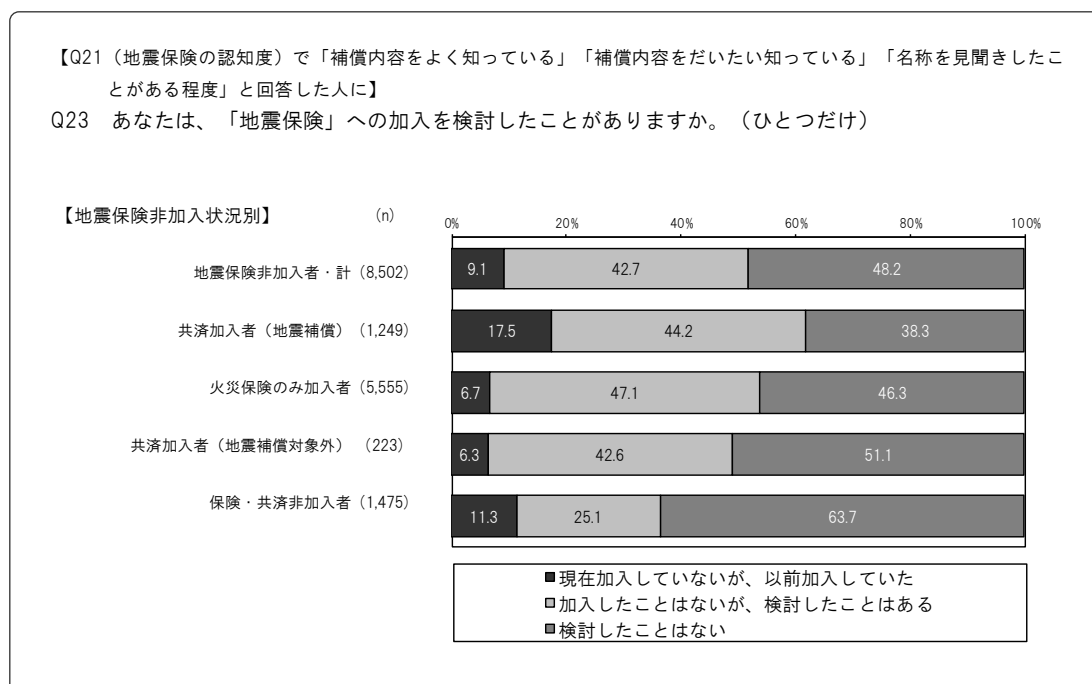
Q22. あなたが、「地震保険」を知ったきっかけは何ですか。（いくつでも）



地震保険の認知度について「補償内容をよく知っている」「補償内容をだいたい知っている」「名称を見聞きしたことがある程度」と回答した人に、地震保険を知ったきっかけについて質問した。「テレビまたはラジオのCM・番組」の比率が最も高く、「地震災害の報道」が次いでいる。

(2) 地震保険への加入検討の有無

① 地震保険への加入検討の有無



地震保険の認知度について「補償内容をよく知っている」「補償内容をだいたい知っている」「名称を見聞きしたことがある程度」と回答した人に、地震保険への加入検討の有無について質問した。

地震保険非加入者・計では、「検討したことはない」の比率が48.2%と最も高く、「加入したことはないが、検討したことはある」（42.7%）が次いでいる。

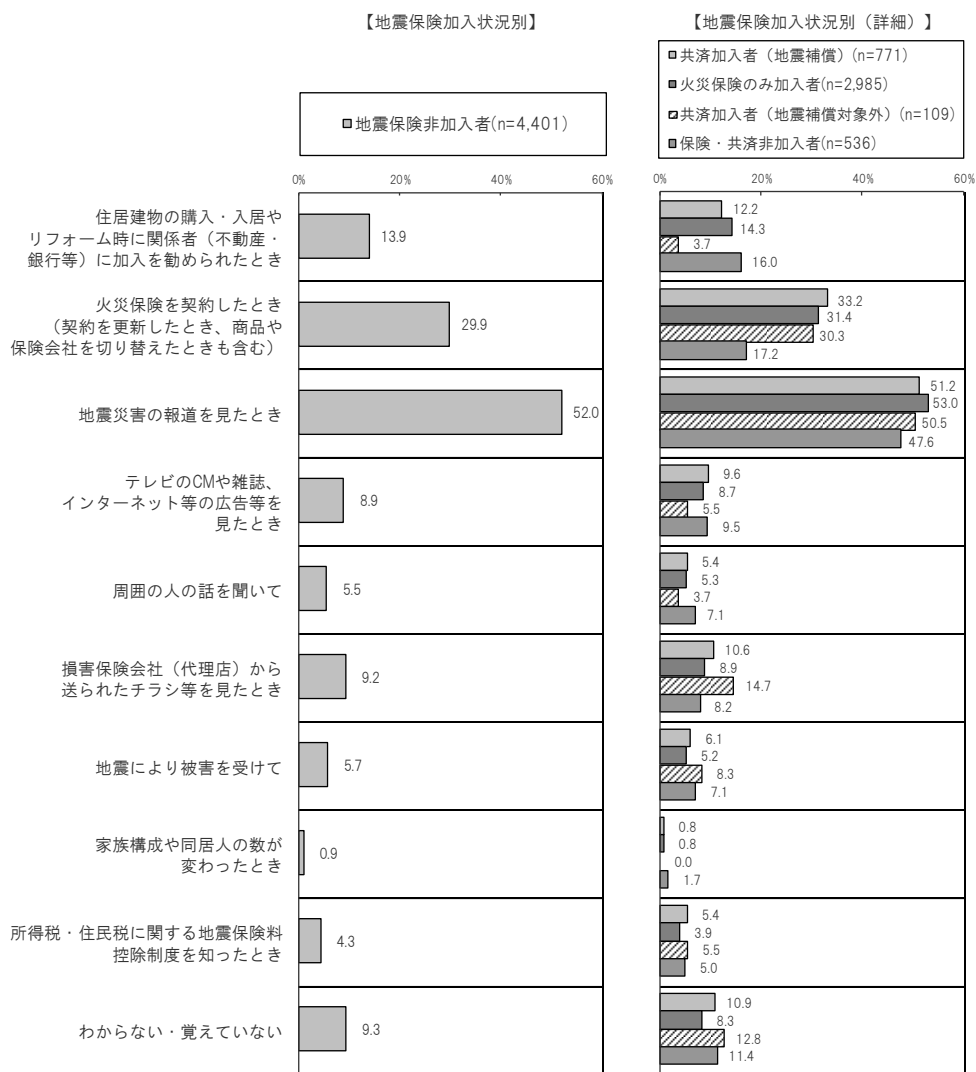
地震保険非加入者を詳細にみると、保険・共済非加入者では「検討したことはない」の比率が63.7%で、他の区分を大きく上回る。

② 地震保険の加入を検討した場面

【Q23（地震保険の加入検討の有無）で「現在加入している」「現在加入していないが、以前加入していた」

「加入したことはないが、検討したことはある」と回答した人に】

Q24. 地震保険の加入を検討したのはどんなときでしたか。（いくつでも）



地震保険の加入検討の有無について「現在加入していないが、以前加入していた」「加入したことはないが、検討したことはある」と回答した人に、地震保険の加入を検討した場面を質問した。

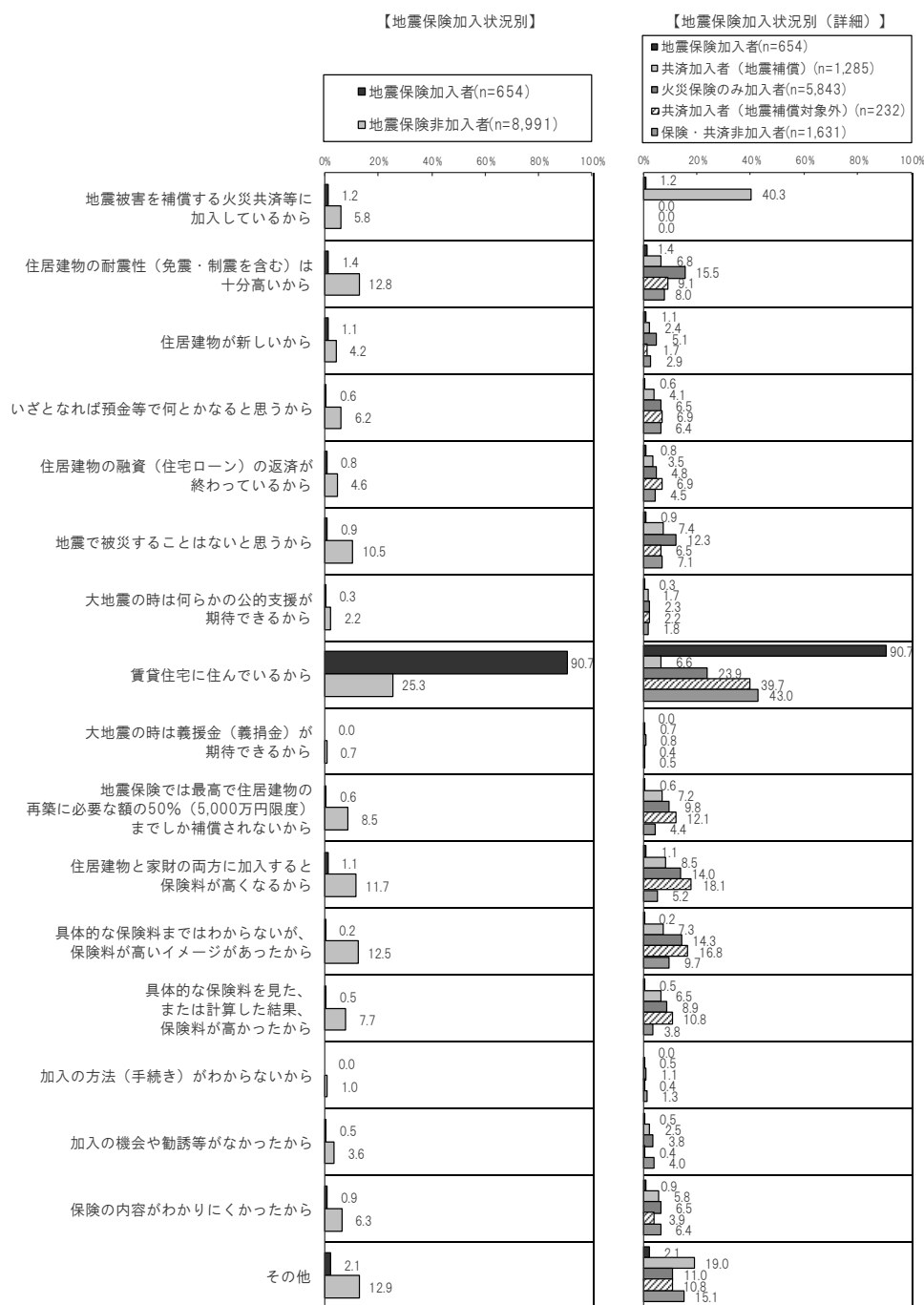
いずれの区分も「地震災害の報道を見たとき」の比率が最も高く、「火災保険を契約したとき（契約を更新したとき、商品や保険会社を切り替えたときも含む）」が次いでいる。

(3) 地震保険に加入していない理由

① 住居建物

【SC15（「住居建物」の保険・共済加入状況）で、地震保険に加入していないと回答した人に】

Q26. 現在、「住居建物」を対象とした地震保険に、加入していないと回答された方にお伺いします。
「住居建物」を対象とした地震保険に加入していない理由は何ですか。（いくつでも）



『住居建物』に対する地震保険に加入していない人に、地震保険に加入していない理由

を質問した。

地震保険加入者（『家財』に対する地震保険のみ加入者）では「賃貸住宅に住んでいるから」の比率が90.7%と圧倒的に高い。地震保険非加入者においても、「賃貸住宅に住んでいるから」が25.3%と最も高い。

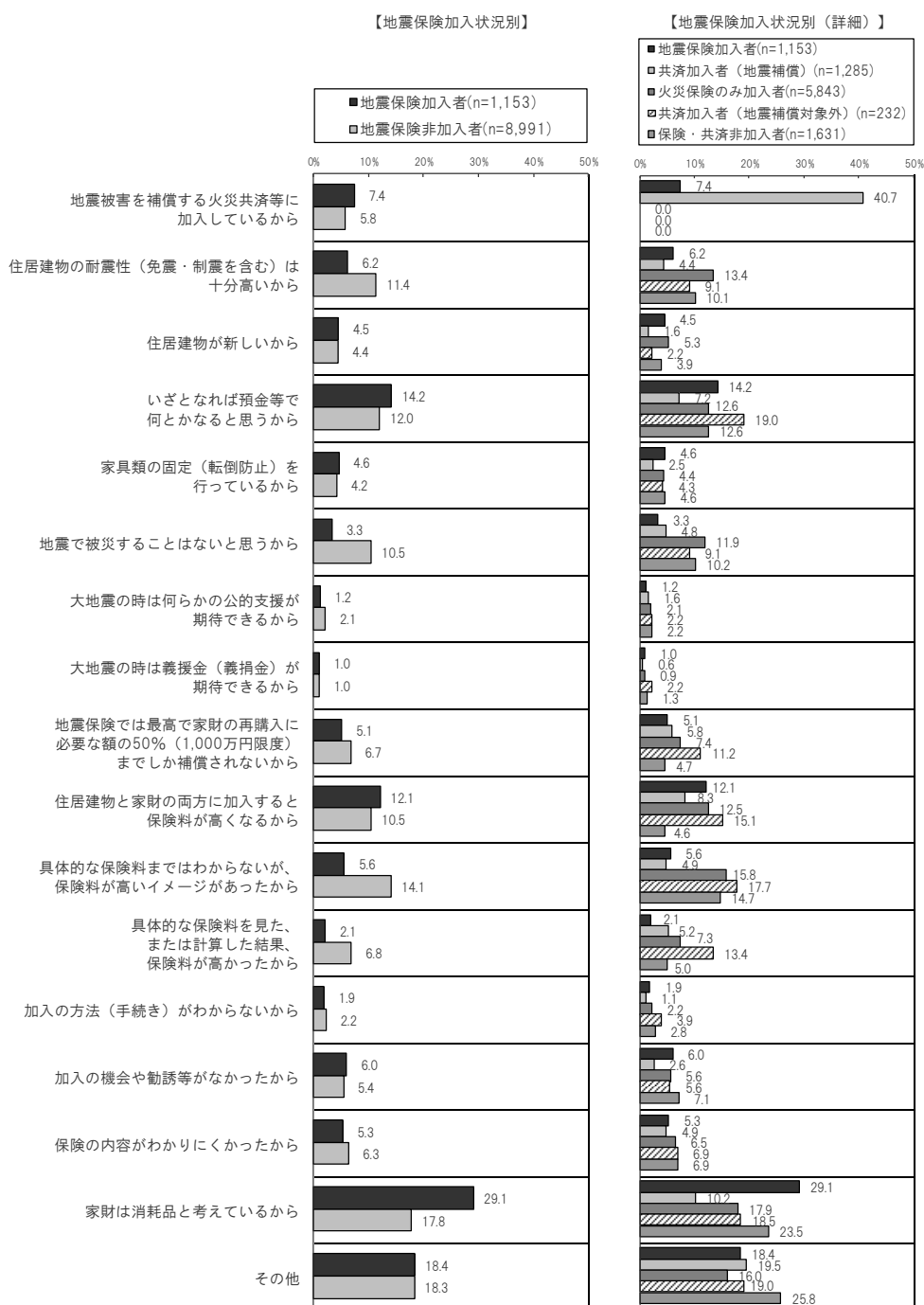
地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償）は「地震被害を補償する火災共済等に参加しているから」が最も高く、その他の区分は「賃貸住宅に住んでいるから」が最も高い。

② 家財

【SC16（「家財」の保険・共済加入状況）で、地震保険に加入していないと回答した人に】

Q28. 現在、「家財」を対象とした地震保険に、加入していないと回答された方にお伺いします。

「家財」の地震保険に加入していない理由は何ですか。（いくつでも）



『家財』に対する地震保険に加入していない人に、地震保険に加入していない理由を質問した。

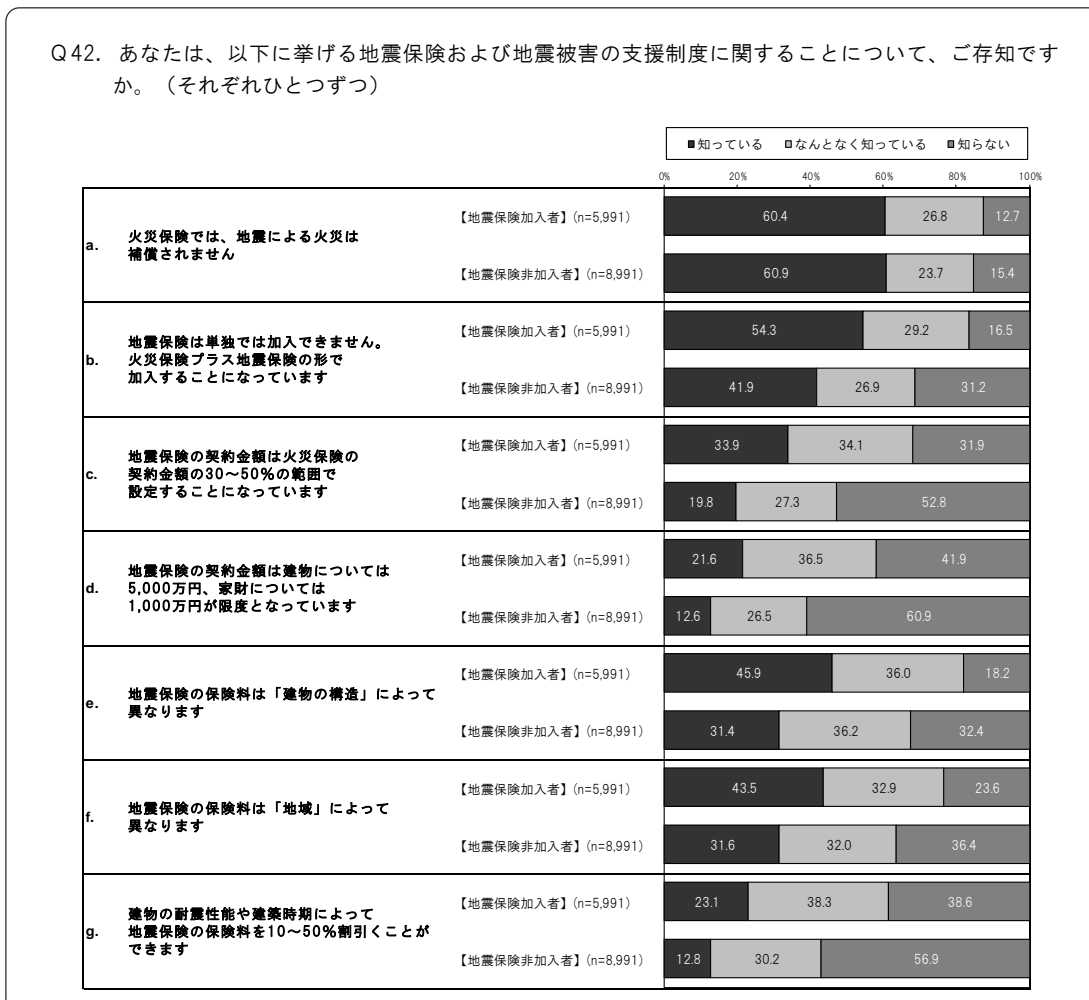
地震保険加入者（『住居建物』に対する地震保険のみ加入者）では「家財は消耗品と考
えているから」の比率が29.1%で最も高い。地震保険非加入者においても、「家財は消耗
品と考えているから」が17.8%で最も高い。

地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償）は「地震被害を補償する火
災共済等に参加しているから」が40.7%と最も高い。また、特に保険・共済非加入者で
「家財は消耗品と考えているから」の比率が高い。

6. 地震保険制度・地震保険料に対する意識

(1) 制度内容等の認知度

<項目 (a) ~ (g) について>



地震保険および地震被害の支援制度に関する各制度内容（a~gの各項目）の認知状況については、下記の通り。

<a. 火災保険では地震による火災は補償されない>ことについて、「知っている」「なんとなく知っている」を合わせた『知っている（計）』は、地震保険加入者は87.2%（=60.4%+26.8%）、非加入者は84.6%（=60.9%+23.7%）となっている。なお、他の項目と比べると、認知度が最も高い。

<b. 地震保険は単独では加入できない>ことについて、『知っている（計）』は、地震保険加入者は83.5%（=54.3%+29.2%）、非加入者は68.8%（=41.9%+26.9%）となっており、認知度に約15ポイントの差がある。

<c. 地震保険の契約金額は火災保険の契約金額の30~50%の範囲で設定する>ことについて、『知っている（計）』は、地震保険加入者は68.0%（=33.9%+34.1%）、非加入者は47.1%（=19.8%+27.3%）となっており、認知度に約21ポイントの差がある。

<d. 地震保険の契約金額の限度額>について、『知っている（計）』は、地震保険加入者は58.1%（=21.6%+36.5%）、非加入者は39.1%（=12.6%+26.5%）となっており、認知度に19ポイントの差がある。

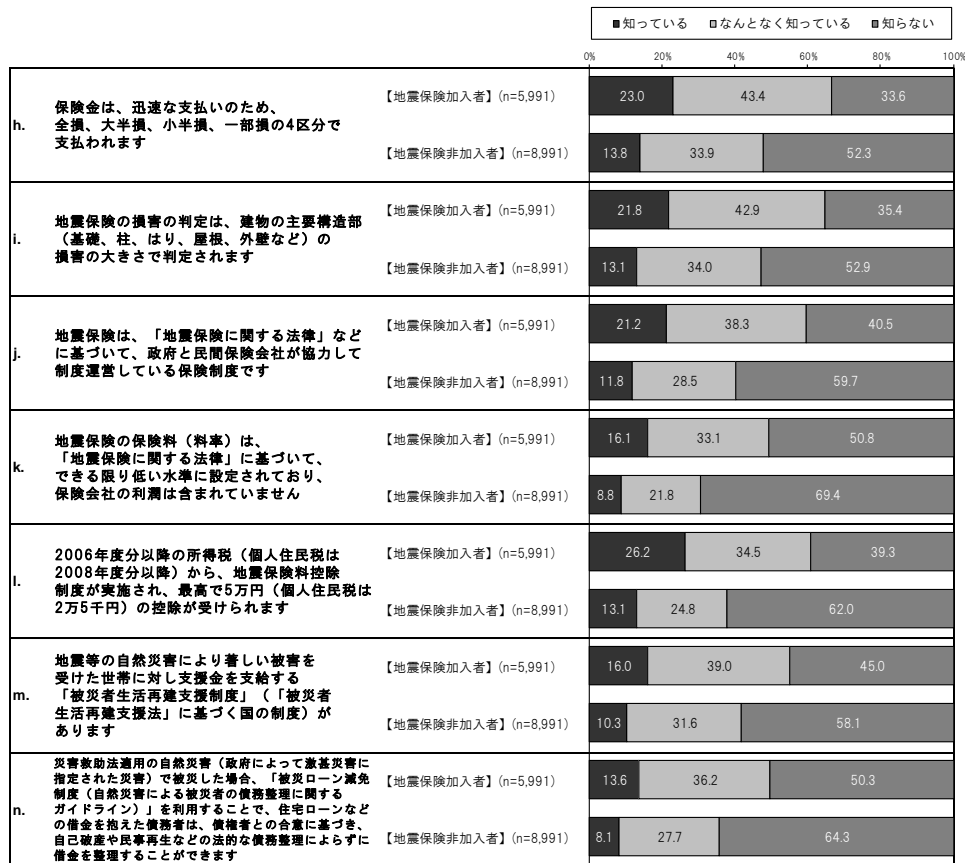
<e. 保険料は建物の構造によって異なる>ことについて、『知っている（計）』は、地震保険加入者は81.9%（=45.9%+36.0%）、非加入者は67.6%（=31.4%+36.2%）となっており、認知度に約14ポイントの差がある。

<f. 保険料は地域によって異なる>ことについて、『知っている（計）』は、地震保険加入者は76.4%（=43.5%+32.9%）、非加入者は63.6%（=31.6%+32.0%）となっており、認知度に約13ポイントの差がある。

<g. 建物の耐震性能や建築時期によって保険料の割引が可能となる>ことについて、『知っている（計）』は、地震保険加入者は61.4%（=23.1%+38.3%）、非加入者は43.0%（=12.8%+30.2%）となっており、認知度に約18ポイントの差がある。

<項目 (h) ~ (n) について>

Q 42. あなたは、以下に挙げる地震保険および地震被害の支援制度に関することについて、ご存知ですか。(それぞれひとつずつ)



地震保険および地震被害の支援制度に関する各制度内容 (h~nの各項目) の認知状況については、下記の通り。

<h. 保険金は、全損、大半損、小半損、一部損の4区分で支払われる> ことについて、『知っている(計)』は、地震保険加入者は66.4% (=23.0%+43.4%)、非加入者は47.7% (=13.8%+33.9%) となっており、認知度に約19ポイントの差がある。

<i. 損害の判定は、建物の主要構造部の損害の大きさに判定される> ことについて、『知っている(計)』は、地震保険加入者は64.7% (=21.8%+42.9%)、非加入者は47.1% (=13.1%+34.0%) となっており、認知度に約18ポイントの差がある。

<j. 地震保険は政府と民間保険会社が協力して制度運営している> ことについて、『知っている(計)』は、地震保険加入者は59.5% (=21.2%+38.3%)、非加入者は40.3% (=11.8%+28.5%) となっており、認知度に約19ポイントの差がある。

<k. 保険料率に保険会社の利潤は含まれていない> ことについて、『知っている(計)』は、地震保険加入者は49.2% (=16.1%+33.1%)、非加入者は30.6% (=8.8%+21.8%) となっており、認知度に約19ポイントの差がある。なお、他の項目と比べると、

認知度が最も低い。

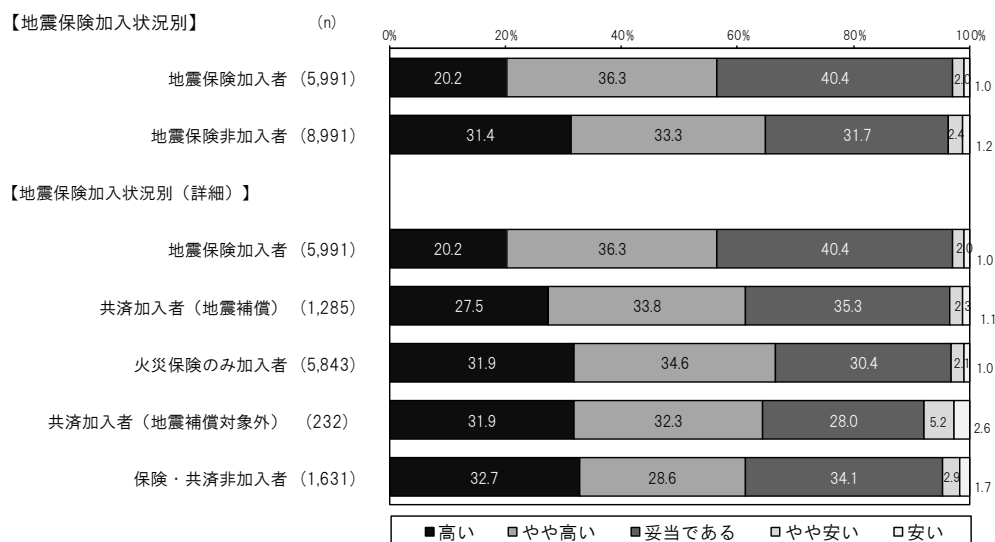
<1. 所得税から地震保険料控除制度が実施され、最高で5万円の控除が受けられる>ことについて、『知っている（計）』は、地震保険加入者は60.7%（=26.2%+34.5%）、非加入者は37.9%（=13.1%+24.8%）となっており、認知度に約23ポイントの差がある。

<m. 「被災者生活再建支援制度（被災者生活再建支援法）」に基づく国の制度がある>ことについて、『知っている（計）』は、地震保険加入者は55.0%（=16.0%+39.0%）、非加入者は41.9%（=10.3%+31.6%）となっており、認知度に約13ポイントの差がある。

<n. 災害救助法適用の自然災害で被災した場合、「被災ローン減免制度（自然災害による被災者の債務整理に関するガイドライン）」を利用することで、自己破産や民事再生などの債務整理によらず住宅ローンなどの借金を整理することができる>ことについて、『知っている（計）』は、地震保険加入者は49.8%（=13.6%+36.2%）、非加入者は35.8%（=8.1%+27.7%）となっており、認知度に14ポイントの差がある。なお、他の項目と比べると、2番目に認知度が低い。

(2) 地震保険料の印象

Q43. この表内の保険料は、住居建物や家財を対象として地震保険に加入した場合の契約金額 1,000 万円あたりの 1 年間の保険料となりますが、地震保険料の印象についてあてはまるものをお答えください。(ひとつだけ)

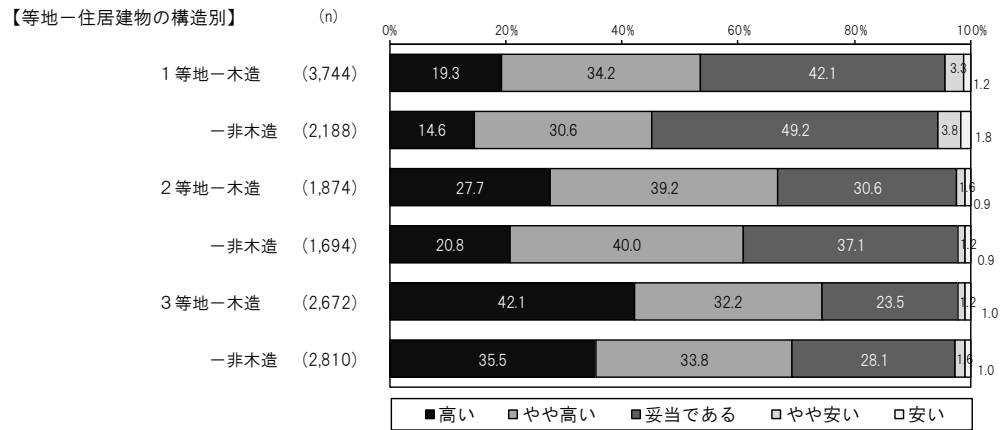


*アンケート内で回答者に確認いただいた資料は、【付録2】を参照

地震保険料の印象について、「高い」と「やや高い」を合わせた『高いと感じる(計)』は、地震保険加入者は56.5%(=20.2%+36.3%)、非加入者は64.7%(=31.4%+33.3%)となっており、いずれも半数以上が地震保険料が高いと回答している。

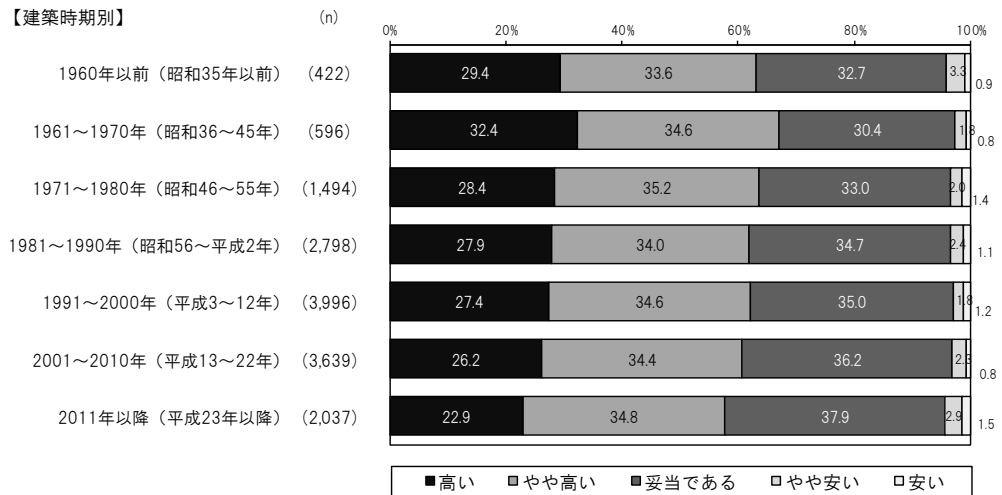
地震保険非加入者を詳細にみると、火災保険のみ加入者では『高いと感じる(計)』が66.5%(=31.9%+34.6%)を占めており、他の区分をやや上回る。

《参考1》地震保険料の印象を等地一住居建物の構造別に集計



《参考1》は、等地一住居建物の構造別に集計した結果である。『高いと感じる（計）』の比率は、非木造よりも木造の方が、また、等地（地震保険料）が高い方が多い。

《参考2》地震保険料の印象を住居建物の建築時期別に集計



《参考2》は、住居建物の建築時期別に集計した結果である。いずれの建築時期においても、『高いと感じる（計）』は半数以上を占める。

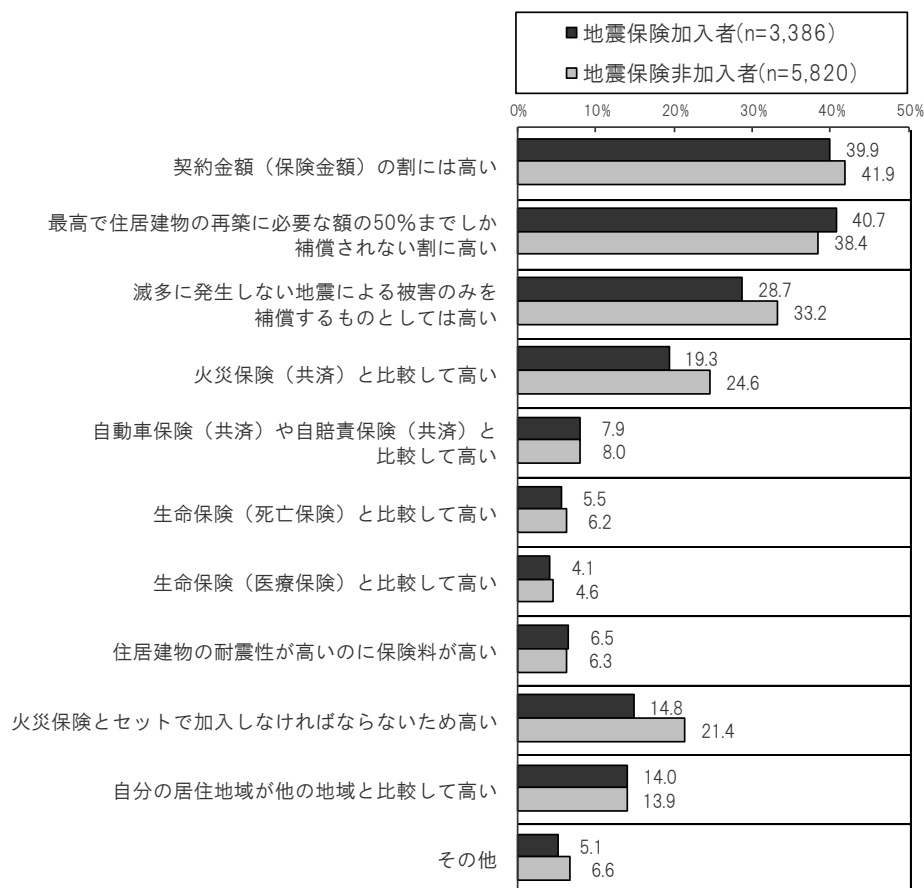
(3) 地震保険料が高いと感じる理由

【Q43（保険料の印象）で「高い」「やや高い」と回答した人に】

Q44. では、「保険料が高い」とお答えになった理由について、

以下の中から、あてはまるものをすべてお答えください。（いくつでも）

【地震保険加入状況別】



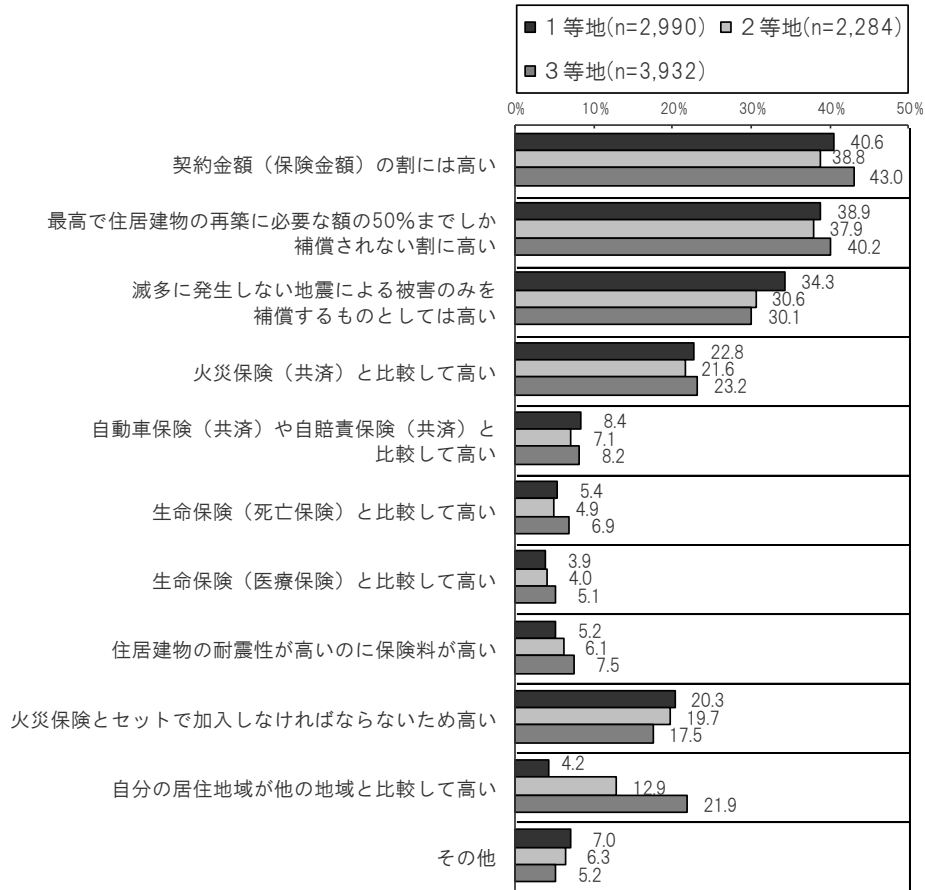
*アンケート内で回答者に確認いただいた資料は、【付録2】を参照

地震保険料について「高い」「やや高い」という印象を持つ人に、その理由を質問した。地震保険加入者では、「最高で住居建物の再築に必要な額の50%までしか補償されない割に高い」が40.7%と最も高く、次いで「契約金額（保険金額）の割には高い」が39.9%となっている。

地震保険非加入者でも上位に挙がる項目は変わらず、「契約金額（保険金額）の割には高い」が41.9%と最も高く、「最高で住居建物の再築に必要な額の50%までしか補償されない割に高い」が38.4%で次いでいる。

《参考》地震保険料が高いと感じる理由を等別別に集計

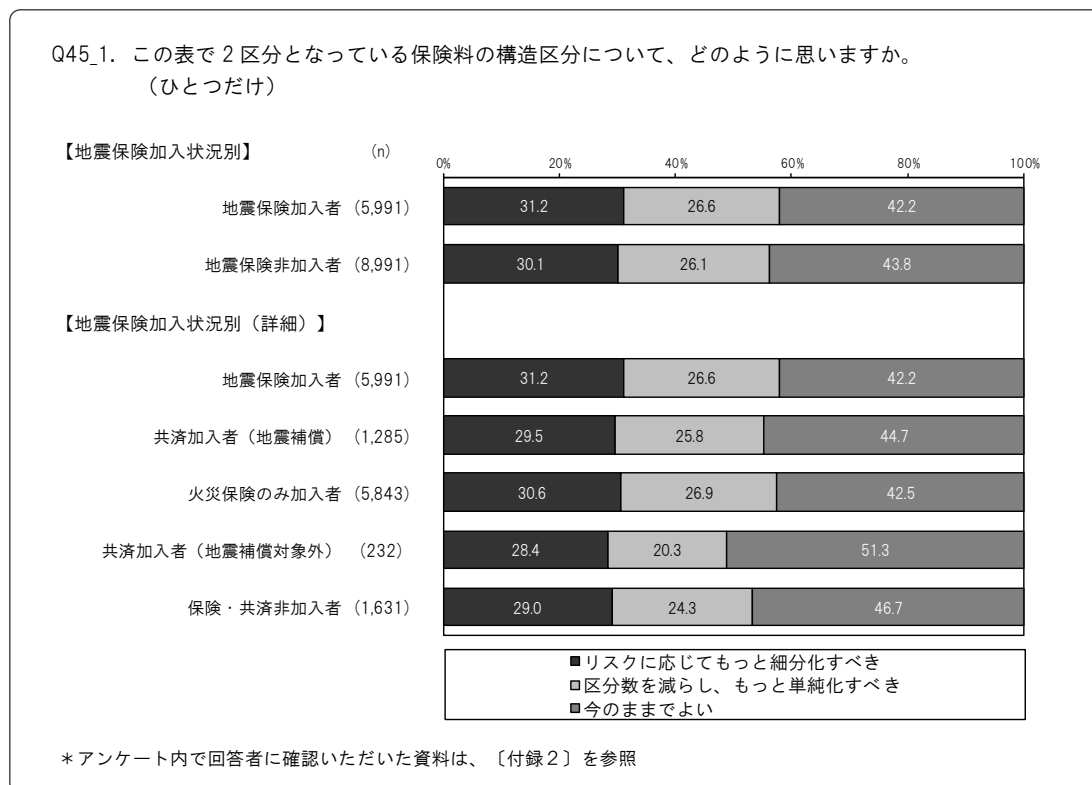
【等別別】



《参考》は、等別別に集計した結果である。「自分の居住地域が他の地域と比較して高い」を除くと、等別別の回答に大きな差はない。

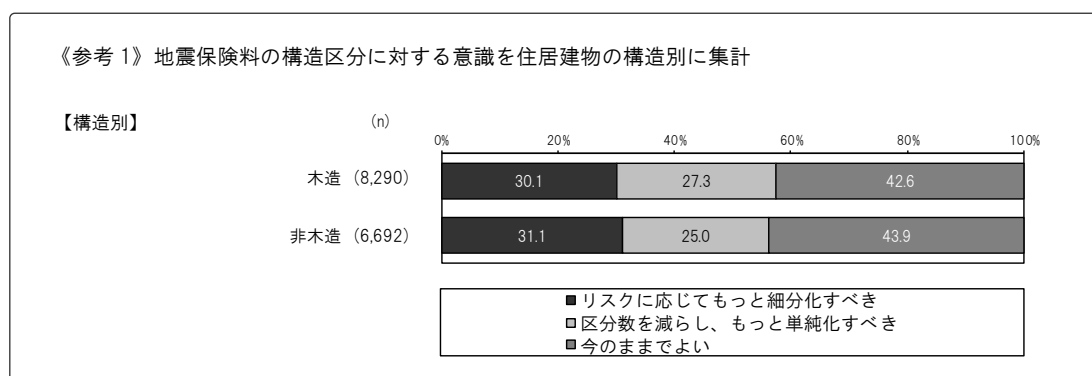
(4) 地震保険料の構造区分に対する意識

① 地震保険料の構造区分



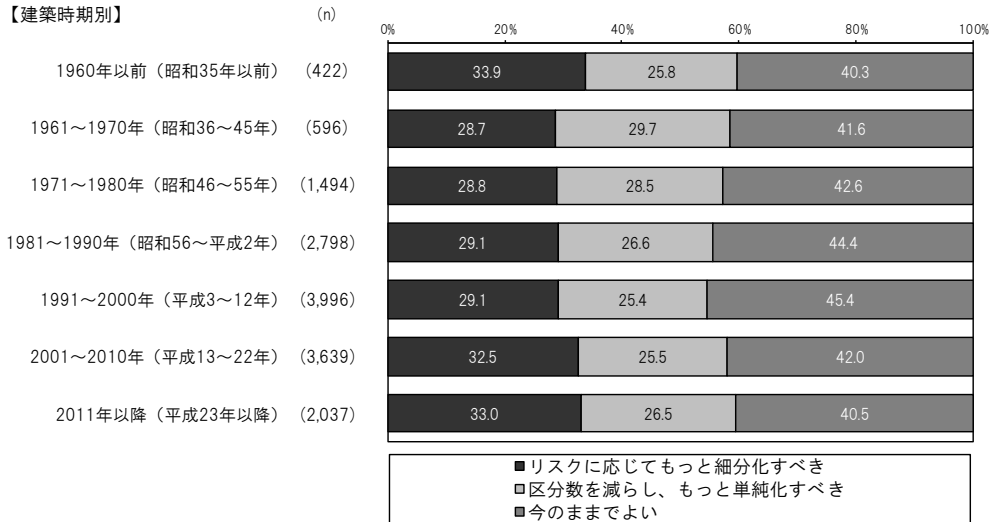
地震保険料の構造区分に対する意識をみると、地震保険加入者・非加入者ともに、「今のままでよい」が4割程度と最も高く、次いで「リスクに応じてもっと細分化すべき」が3割程度、「区分数を減らし、もっと単純化すべき」が2割半ばと、同様の傾向となっている。

地震保険非加入者について詳細にみても、すべての区分で「今のままでよい」が4割以上を占め、最も高い。



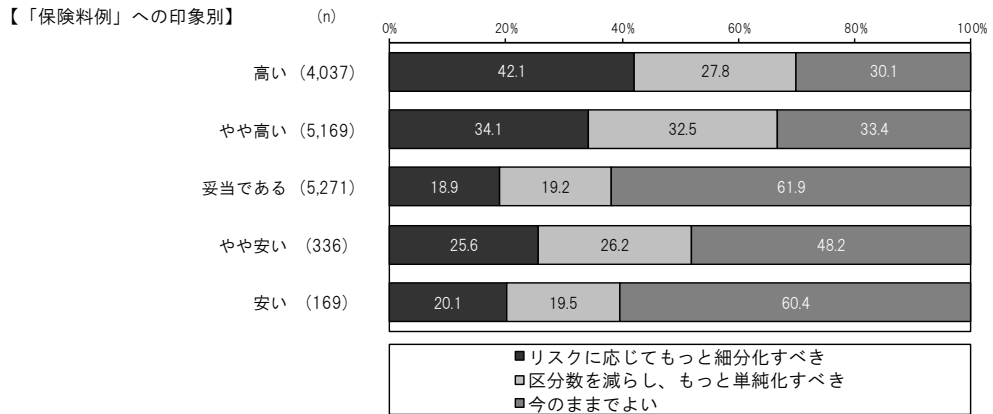
《参考1》は、住居建物の構造別に集計した結果である。構造別の回答結果に大きな差はない。

《参考2》地震保険料の構造区分に対する意識を建築時期別に集計



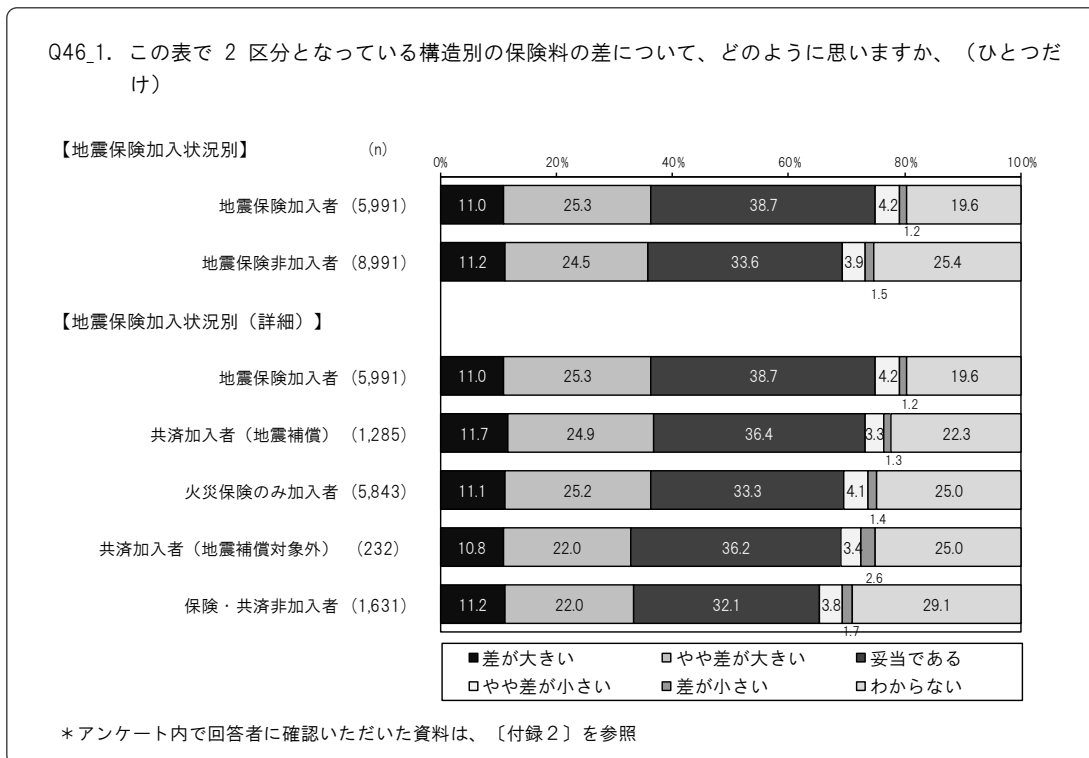
《参考2》は、住居建物の建築時期別に集計した結果である。建築時期別の回答結果に大きな差はない。

《参考3》地震保険料の構造区分に対する意識を「保険料例」への印象別に集計



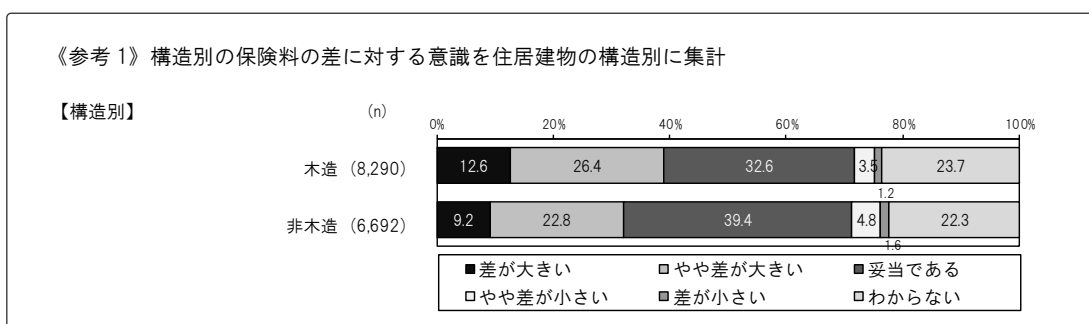
《参考3》は、「保険料例」への印象別に集計した結果である。地震保険料に「高い」「やや高い」という印象を持っている者は、「リスクに応じてもっと細分化すべき」が他層を上回る。

②地震保険料の構造別の差に対する意識



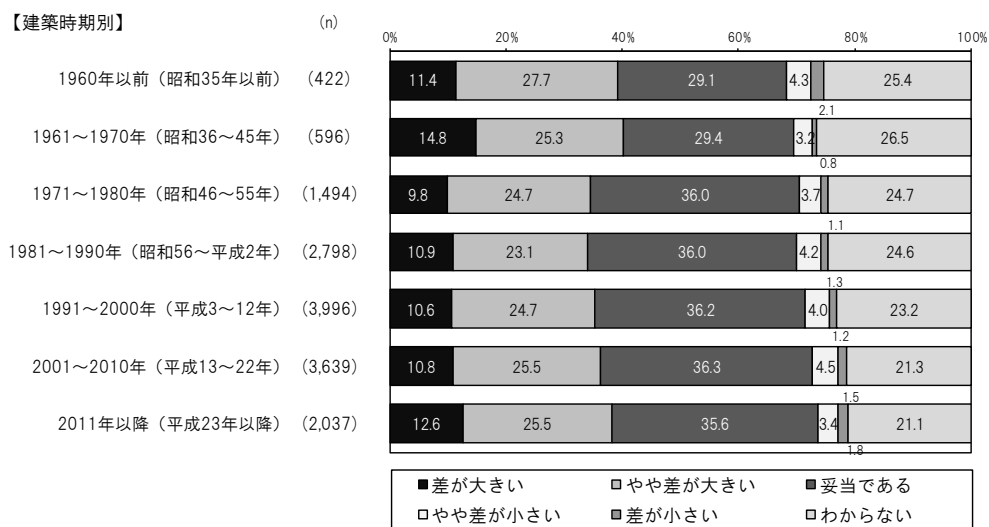
地震保険料の構造別の差に対する意識をみると、地震保険加入者では「妥当である」の比率が38.7%と最も高く、「差が大きい」と「やや差が大きい」を合わせた『差が大きい（計）』では36.3%（=11.0%+25.3%）となっており、「やや差が小さい」と「差が小さい」を合わせた『差が小さい（計）』の5.4%（=4.2%+1.2%）を大きく上回る。地震保険非加入者も、同様の傾向である。ただし、地震保険加入者・非加入者ともに「わからない」が2割程度を占める。

地震保険非加入者を詳細にみると、保険・共済非加入者では「わからない」が29.1%となっており、他の区分をやや上回る。



《参考1》は、住居建物の構造別に集計した結果である。『妥当である』の比率は、木造が32.6%、非木造が39.4%で、約7ポイントの差がある。

《参考2》構造別の地震保険料の差に対する意識を建築時期別に集計

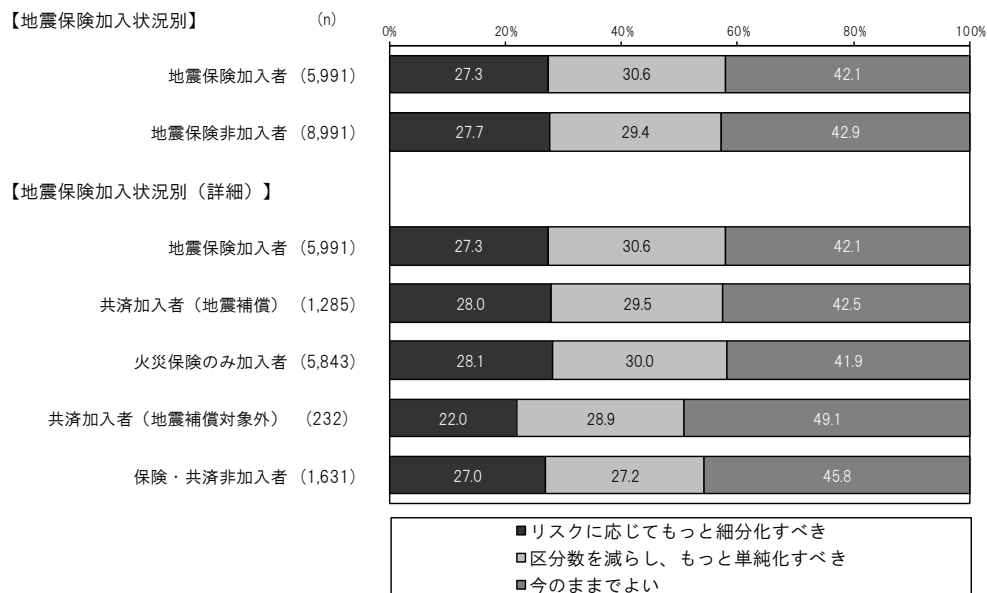


《参考2》は、住居建物の建築時期別に集計した結果である。建築時期別の回答結果に大きな差はない。

(5) 地震保険料の地域区分に対する意識

① 地震保険料の地域区分

Q45_2. この表で 11 区分となっている都道府県単位での保険料の地域区分について、どのように思いますか。（ひとつだけ）

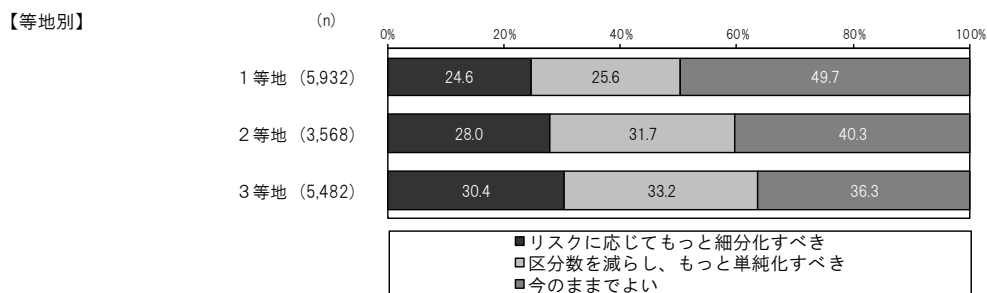


* アンケート内で回答者に確認いただいた資料は、〔付録2〕を参照

地震保険料の地域区分に対する意識をみると、地震保険加入者・非加入者ともに、「今のままでよい」が4割程度と最も高く、次いで「区分数を減らし、もっと単純化すべき」が3割程度、「リスクに応じてもっと細分化すべき」が3割弱と、同様の傾向となっている。

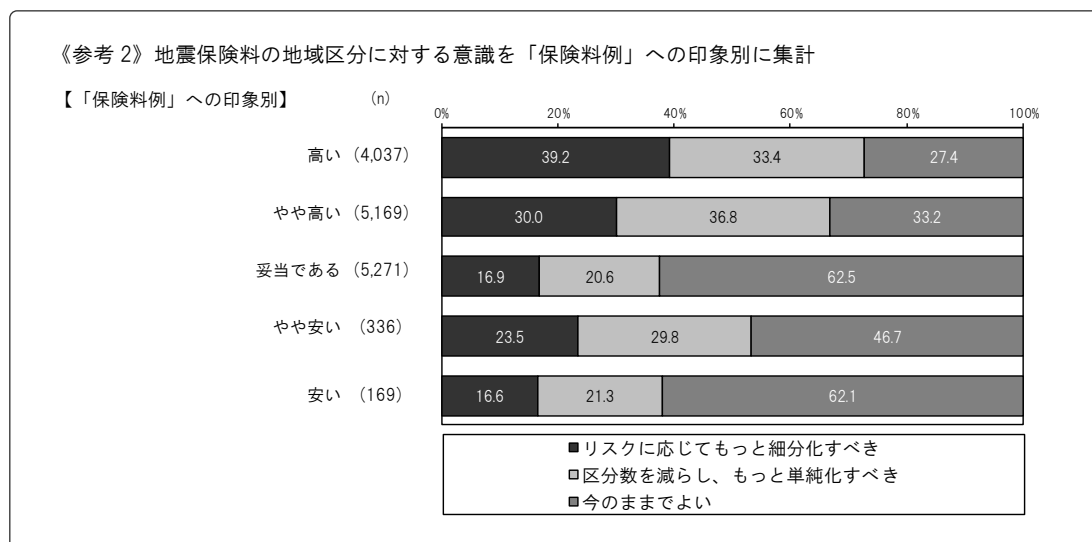
地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償対象外）では、「今のままでよい」が49.1%で、他の区分をやや上回る。

《参考1》地震保険料の地域区分に対する意識を等地別に集計



《参考1》は、等地別に集計した結果である。1等地から3等地へと等地（地震保険料）

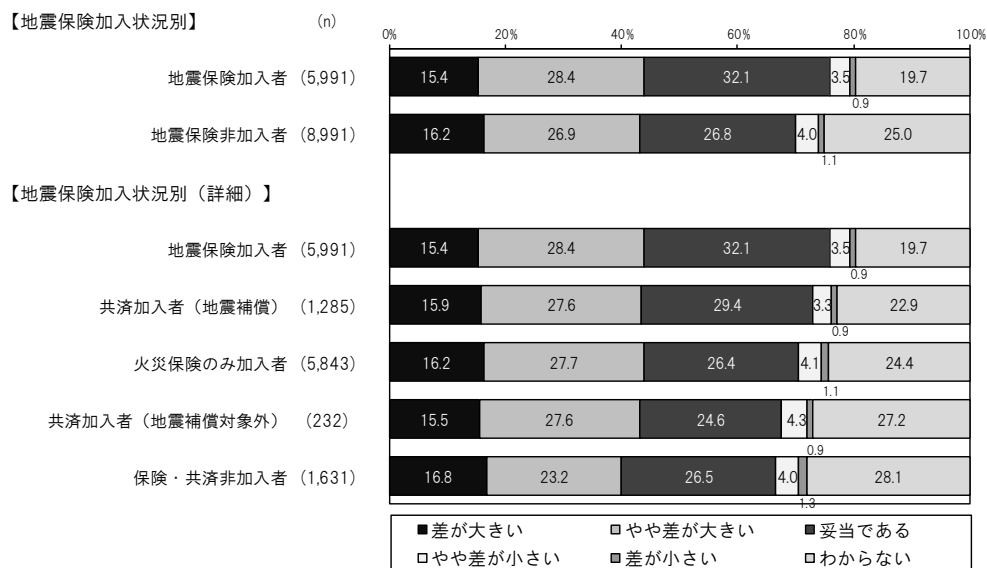
が高くなるにつれて、「今のままでよい」の比率が低くなり、「リスクに応じてもっと細分化すべき」と「区分数を減らし、もっと単純化すべき」の比率が高くなる。



《参考2》は、「保険料例」への印象別に集計した結果である。地震保険料に「高い」または「やや高い」という印象を持っている者は、「今のままでよい」の比率が他層より低く、「リスクに応じてもっと細分化すべき」と「区分数を減らし、もっと単純化すべき」の両方の比率が、他層を上回る。

②地震保険料の都道府県別の差に対する意識

Q46_2. この表で 11 区分となっている都道府県別での保険料の差について、どのように思いますか、
(ひとつだけ)

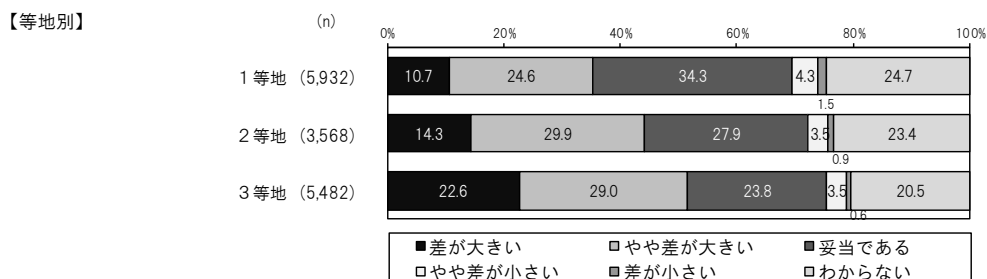


*アンケート内で回答者に確認いただいた資料は、〔付録2〕を参照

地震保険料の都道府県別の差に対する意識をみると、地震保険加入者では「差が大きい」と「やや差が大きい」を合わせた『差が大きい (計)』の比率が43.8% (=15.4%+28.4%) となっており、「やや差が小さい」と「差が小さい」を合わせた『差が小さい (計)』の4.4% (=3.5%+0.9%) を大きく上回る。地震保険非加入者においても、同様の傾向である。ただし、地震保険加入者・非加入者ともに「わからない」が2割程度を占める。

地震保険非加入者を詳細にみると、保険・共済非加入者では「わからない」が28.1% となっており、他の区分をやや上回る。

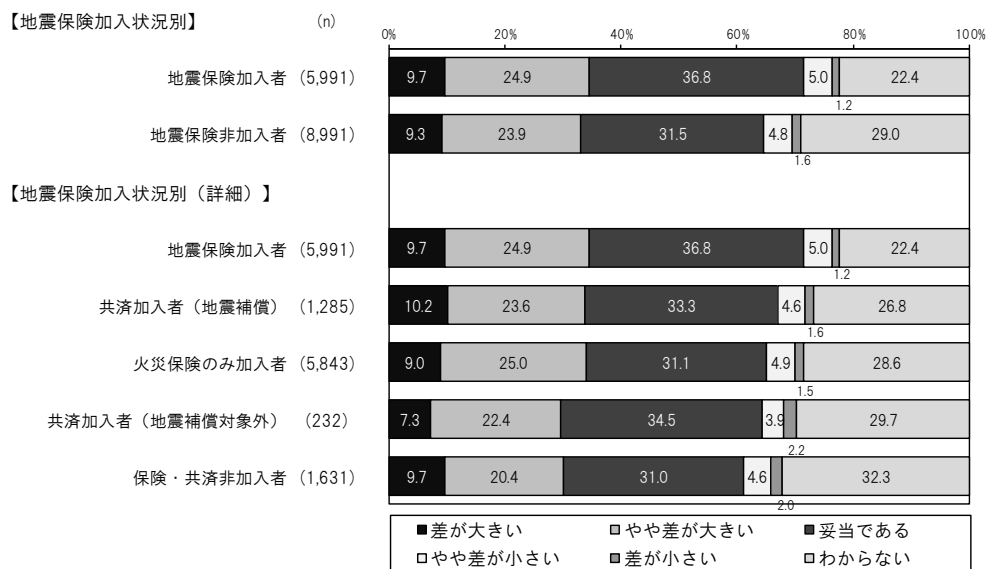
《参考》都道府県別の地震保険料の差に対する意識を等地別に集計



《参考》は、等地別に集計した結果である。1等地から3等地へと等地 (地震保険料) が高くなるにつれて、『差が大きい (計)』が高く、「妥当である」が低くなる傾向がみられる。

(6) 地震保険料の割引率の差に対する意識

Q46_3. 表の下に記載の各割引制度による割引率の差について、どのように思いますか。(ひとつだけ)

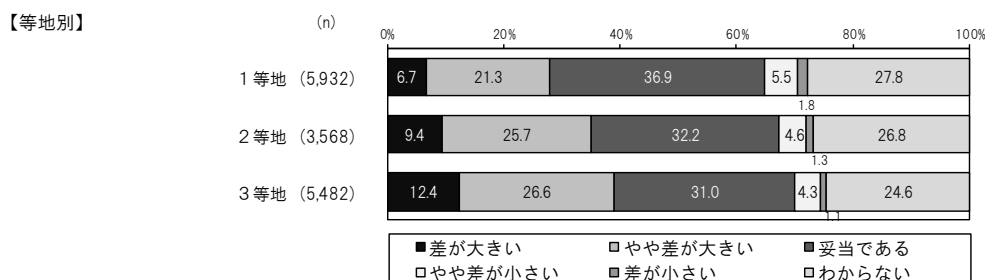


*アンケート内で回答者に確認いただいた資料は、【付録2】を参照

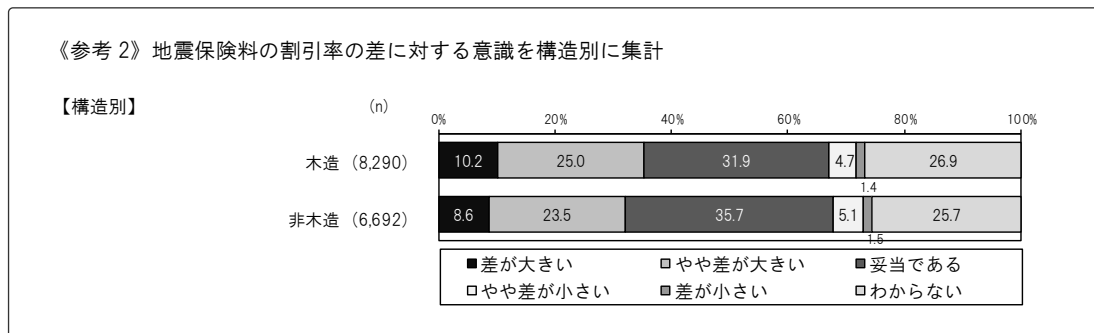
地震保険料の割引率の差に対する意識をみると、地震保険加入者では「差が大きい」と「やや差が大きい」を合わせた『差が大きい（計）』が34.6%（=9.7%+24.9%）、「妥当である」が36.8%となっており、「やや差が小さい」と「差が小さい」を合わせた『差が小さい（計）』の6.2%（=5.0%+1.2%）を大きく上回る。地震保険非加入者においても、同様の傾向となっている。ただし、地震保険加入者・非加入者ともに「わからない」が2～3割程度を占める。

地震保険非加入者を詳細にみると、保険・共済非加入者では「わからない」が32.3%となっており、他の区分をやや上回る。

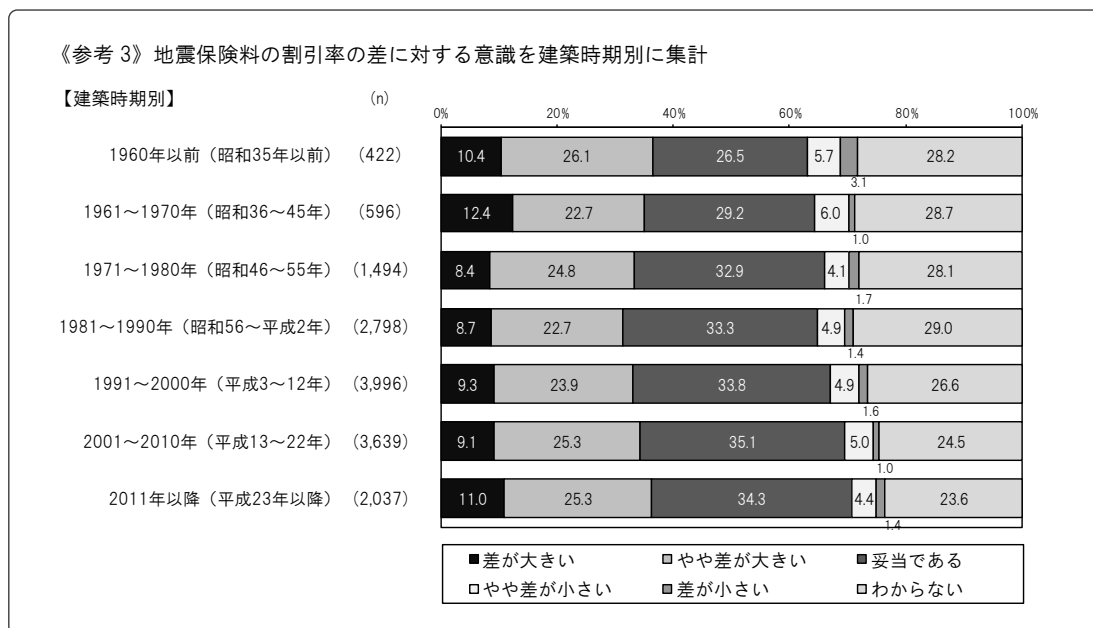
《参考1》地震保険料の割引率の差に対する意識を等別別に集計



《参考1》は、等地別に集計した結果である。1等地から3等地へと等地（地震保険料）が高くなるにつれて、『差が大きい（計）』が高く、「妥当である」が低くなる傾向がみられる。



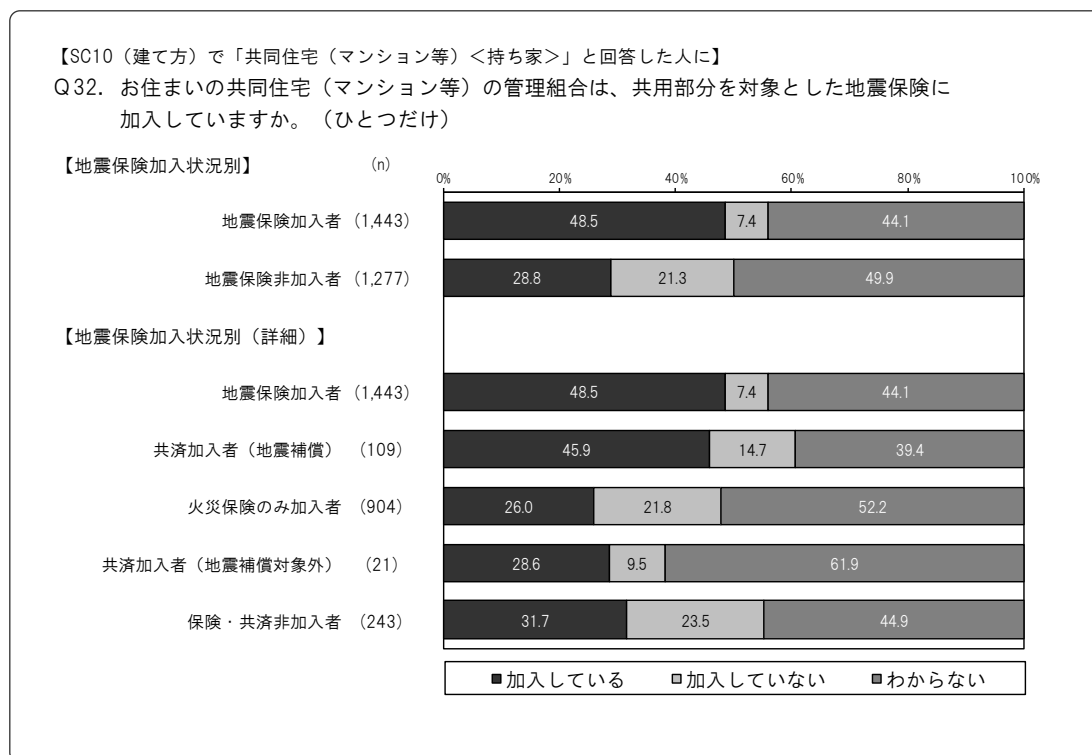
《参考2》は、住居建物の構造別に集計した結果である。非木造の方が「妥当である」がやや高く、『差が大きい（計）』がやや低い。



《参考3》は、住居建物の建築時期別に集計した結果である。建築時期が新しい方が「妥当である」の比率が高い傾向がある。

7. 共同住宅の共用部分の地震保険加入状況

① 共用部分の地震保険加入の有無



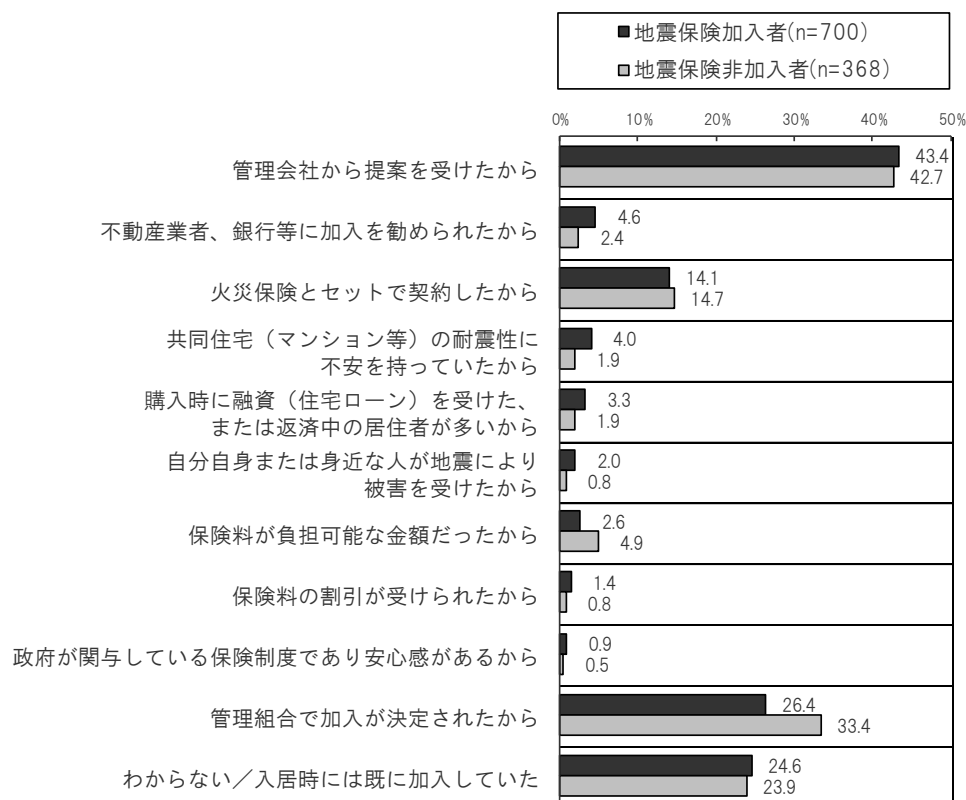
共同住宅の共用部分の地震保険加入有無をみると、地震保険加入者・非加入者ともに「わからない」の比率が約半数を占める。「加入している」は、地震保険加入者は48.5%と約半数を占めるのに対し、非加入者では28.8%となっており、約20ポイントの差がある。

② 共用部分を対象とした地震保険に加入した理由

【Q32（共用部分の地震保険加入の有無）で「加入している」と回答した人に】

Q33. お住まいの共同住宅（マンション等）の管理組合が共用部分を対象とした地震保険に加入した理由（きっかけ）は何ですか。（いくつでも）

【地震保険加入状況別】

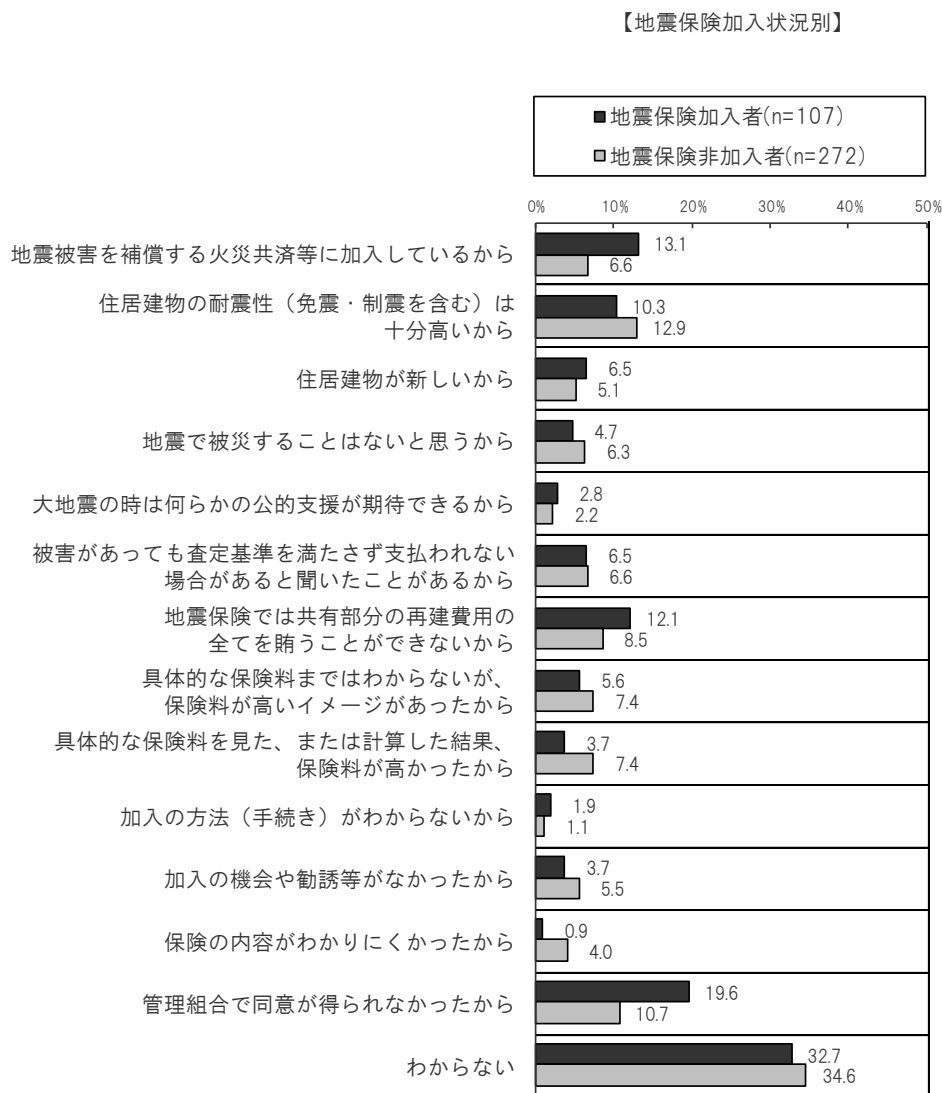


共同住宅の共用部分の地震保険に加入している人に、加入した理由を質問した。地震保険加入者・非加入者ともに「管理会社から提案を受けたから」が最も多く、「管理組合で加入が決定されたから」が次いでいる。

③ 共用部分を対象とした地震保険に加入していない理由

【Q32（共用部分の地震保険加入の有無）で「加入していない」と回答した人に】

Q34. 共同住宅（マンション等）の共用部分は地震保険に加入していないとお答えになった方に伺います。なぜ加入していないのですか。（いくつでも）



共同住宅の共用部分の地震保険に加入していない人に、加入していない理由を質問した。地震保険加入者・非加入者ともに「わからない」の比率が約3割で最も多い。

加入していない理由としては、地震保険加入者では「管理組合で同意が得られなかったから」が19.6%で最も高く、非加入者では「住居建物の耐震性（免震・制震）は十分高いから」が12.9%で最も高い。